

社会福祉法人

陽風園

創立125周年記念誌

あした晴れ

■陽風園（本園）

向陽苑

万陽苑・万陽苑デイサービスセンター

三陽ホーム

あけぼの作業所

陽風園お年寄り介護相談センター

陽風園診療所



ハビリポート若葉

陽風讃歌

作詞 安田 隆明
作曲 中村 外治

一、朝は小鳥と共に起き
清く明るく朗らかに
今日も元気を胸に秘め
五つの信条合言葉
歴史に輝く 陽風園

二、山と川と街並みに
緑と花に風薫る
今日も楽しく笑顔の集い
五つの信条合言葉
奉仕の館 陽風園

三、住まいを共に この縁えん
心やすらぎ すこやかに
今日も出逢いを大切に
五つの信条合言葉
使命に燃える 陽風園





第三万陽苑・第三万陽苑デイサービスセンター



第二万陽苑

私たちの信条

一、私たちは、先人から受け継いだ仁愛の精神に則り、その伝承者として奉仕の誠を捧げます。

一、私たちは、福祉の崇高なる使者として世のため、人のため、園のため、顕愛の念に努めます。

一、私たちは、和を貴び、信を奉じ、協調融和と友情の輪の中で奉仕の任を果します。

一、私たちは、対話こそ奉仕の原点であることを肝銘し、対話を以て第一義とします。

一、私たちは「陽風一家」「公序良俗」の美風のもと、心を一にし、奉仕の業にいそしみます。



あした晴れ

目次

はじめに	5
発刊にあたって ご挨拶	6
創始百二十五周年に際して ～過去を知り、将来を語ろう～	6
理事長 安田 隆明	
■祝 辞	8
創立百二十五周年を祝して	9
石川県知事 谷本 正憲	
陽風園創立百二十五周年に寄せて	10
金沢市長 山出 保	
二十一世紀の手本となる施設へ	11
石川県社会福祉協議会会長 嵯峨 逸平	
地域福祉拠点としての役割に感謝	12
金沢市社会福祉協議会会長 奥 清	
■園史・沿革	14
園祖・小野太三郎	15
歴代理事長紹介	16
陽風園125年のあゆみ	18
退職者からのメッセージ「陽風園の思い出」	23
■施設紹介	26
養護老人ホーム 向陽苑	27
一人ひとりの自主性を尊重し、常に敬愛の心を持って…。	
特別養護老人ホーム 万陽苑	31
「かけがえのない一人ひとりの生活が…。」	

ご挨拶

創始百二十五周年に際して
過去を知り、将来を語ろう

理事長 安田 隆明



ここに、園祖小野翁が創始以来、百二十五周年の意義ある慶節を迎えました。偉大な翁の業績を回顧し追憶しながら、この慶節を主宰する不思議な有縁に思いを致し、職員一同と共に心からよろこび、かつ、感謝申し上げます。

今更申し上げるまでもなく、当園は翁が仁愛の情止み難く、窮民を養い、孤児を育て、貧窮を救う一念のもとで家を求め、起居を共にする施設としての灯し火を点されたのが明治六年であり、創始であると承っております。勿論、本県は素より、我が国においても最古にして稀有の施設と申すべきであります。

爾来、我が国は幾度の戦争、事変等、国家存亡の危機に直面しながらも、その灯し火を消すことなく今日を迎えました。将に、風雪に堪えての慶節でもあります。

時の流れは、激動する世情の中で、今日、社会、経済共に改革という試練の時代を迎えました。そこには、行財政改革もあれば、新たな福祉社会を構築する政策課題として、医療、年金を含め、公的介護保険制度の導入という福祉政策への抜本的改革への対応

という試練であり、これが対応は、独り政治的課題ではなく、国民的課題と申すべきであります。

行政主導のもとで、これが対応につき試行検討中ではありますが、幸い、当園には園祖翁の遺志が今もなお脈々として伝承され、「私たちの信条」のもとで任に堪え、任を果しつつあります。行政当局のご支援により、ハードも逐年整備されて参りました。伝統と歴史のもとで、人材も誇り得るものと自負致しております。この慶節を迎えるに当り、職員主導のもとで園の過去、現在、将来につき検討し、試練への対応と将来像につき意見の集約を頂くことと承っております。幸甚の限りであり、感謝の極みでもあります。

「生むことは難く、これを育てることは更に至難な業なり……」と申し上げて参りました。翁が生み、これを育てて頂きました先人の苦勞に思いを致し、世代の私共に課せられた責任の重さを肝に銘じ、今後に処し度く諸賢のご支援をお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

特別養護老人ホーム 第二万陽苑

「ここでは、生活そのものがリハビリ」

特別養護老人ホーム 第三万陽苑

「☆☆☆☆☆☆ 5つ星」

救護施設 三陽ホーム

「温かく、叡知に富んだきめ細かな対応で」

知的障害者更生施設 ハビリポート若葉

ハビリポート。「社会に向けて旅立つ港」

社会就労センター あげぼの作業所

「働く喜びを応援したい」

陽風園お年寄り介護相談センター

「24時間体制で、各種ご相談に応じています」

陽風園診療所

「高度な医療設備と、心のケアを中心に」

■夢に向かって

将来の陽風園へ、福祉の仕事を考える

厚生省社会・援護局施設人材課長 河 幹夫

創立百二十五周年にあたって

石川県厚生部長 藤井 充

陽風園の将来に期待する

金沢市福祉保健部長 金子 衛

生き生きフォーラム

各施設から集まった代表若手職員たちの、青春対談

生き生きフォーラムを終えて

理事・監事あいさつ

評議員 「記念誌発刊に寄せて」

陽風園の概要

陽風園の組織表

あとがき

35

39

43

47

51

53

54

56

57

58

59

60

67

69

75

79

80

81



はじめに

本園は、明治維新後の動乱期に、園祖小野太三郎翁が私費を投じて購入した民家を、窮民に開放し、その救済にあたったことが始まりです。「嘉肴ありと雖ども食せざればその味を知らず」これが園祖の座右の銘だと言われています。同じ人間でありながら、貧するがゆえに、美味であろうと思いつつも、それを味わうことができないという社会の不条理に対する思いが、園祖に苦難の道を歩かせたのでした。慈善の父として、社会事業に捧げた73年の生涯を惜しまれつつ閉じたのは明治45年の春のことです。爾来80余年、本園は、園祖の遺志を連綿と受け継ぎ、福祉の道を、一路邁進してきました。戦前戦後の苦難時代を一貫して社会のニーズに応えることを第一義とし、時代の要請に応じてきました。現在では12の施設と診療所を擁し、入所定員は、実に千名を超えるに至りました。

昨今在宅福祉が重視されてきましたが、まだまだ施設を必要とする人たちも多く、本園の各施設でも設備の充実と処遇技術の向上に努め、万全を期しております。今後とも、利用者の幸福と、地域福祉の拠点としての貢献に努めてまいります。



園章

陽風園(yofuen)の頭文字「y」を図案化し、内の円は太陽の「陽」、5本の斜線(主たる事業数)は「風」、外の円は利用者・職員の和と「園」を表しています。

祝 辞



百二十五周年の佳節を迎えて

陽風園創立百二十五周年に寄せて

金沢市長 山出 保



社会福祉法人「陽風園」が創立百二十五周年という記念すべき年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。

一口に百二十五年と申しますが、陽風園がいに長い歴史を有しておられるかを物語るものだと思います。貧しい人々を救うために社会福祉事業に尽くされた陽風園のご貢献を忘れることはできないと思います。

明治六年小野太三郎氏が私費を投じて購入した民家を、貧しい人々に開放し、その救済にあたったことに始まり、救護施設、養護老人ホーム、精神薄弱者更生施設、特別養護老人ホーム等を社会の変革に伴い、これらの社会福祉施設を開設して時代の要請に応えていただいたことに深甚の敬意を表すものです。

高齢社会や平成十二年度の介護保険の導入を迎え、今後、ますます高齢者、障害者等の社会的弱者の福祉施策の一環として施設福祉の変革が求められております。在宅福祉や地域福祉の重視が叫ばれるなか、在宅福祉の推進に欠かすことのできない、デイサービスセンター、お年寄り介護相談センターを設置し、地域福祉の発展に寄与していただいていますことに衷心より感謝いたす次

第であります。

ご承知のように、本市におきましても平成八年四月、全国十二市とともに中核市の指定を受け、世界都市にふさわしい社会福祉の充実を目指し、福祉施策の推進に懸命の努力を払ってまいり所存でございます。

この度、発行された「陽風園創立百二十五周年記念誌」が、近く二十一世紀の新たな時代に向けての一つの契機となり、社会福祉法人「陽風園」が、今後ますます発展されますようお祈り申し上げます、発行にあたってのお祝いのごことばといたします。

創立百二十五周年を祝して

石川県知事 谷本 正憲



「陽風園」創立百二十五周年を迎えられおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

「陽風園」は明治六年に、故小野太三郎氏が私費で民家を購入し、窮民や浮浪者に開放し、その救済にあたったのがはじまりと聞いております。そうした氏の志は今日まで連綿と受け継がれており、現在では十二の施設と診療所で若人から高齢者まで約千名を処遇することができる入所サービスや近隣の住民に対する通所サービスを提供されているなどこれまでの功績は誠に大きく、安田理事長をはじめ職員の皆様方のご努力に対して深く敬意を表すものであります。

近年、少子高齢化の進展や女性の社会進出など、福祉を取り巻く環境が大きく変化しており、新たな社会福祉事業の在り方が模索されるとともに、社会全体で福祉を支える仕組みづくりが求められております。このため、介護保険制度の創設や児童福祉法の改正などが行われたところでありますが、特に平成十二年度から実施される介護保険制度においては、従来の行政が提供するサービスを選択する措置制度から利用者が自由にサービスを選択できることとなり、これまで以上にサービスの質が問われることとな

ります。

「陽風園」には、百年を超える介護技術・処遇技術に関する蓄積があるうえ施設サービスから在宅サービス更に医療サービスといった福祉・医療の総合的・一体的なサービスが提供できる体制が整っており、今後介護保険制度の施行に向け盤石の体制で臨めるものと大きく期待しております。

県といたしましても、県民の方々が住み慣れた地域で生活できるよう、バリアフリー社会の推進や介護サービスの充実に努めているところでありますが、今後ますます、福祉ニーズが多様化する中で、こうした地域福祉の充実を進めるためには県や市町村といった行政の力だけではなく、地域の皆様方のご協力、とりわけ「陽風園」の地域福祉に向けられてきた熱意が不可欠であり、地域福祉のリーダーとして「陽風園」の果たすべき役割はますます重要なものであり、そのますますの活躍に大きな期待を寄せているところであります。

最後になりましたが、「陽風園」が今後ますます地域福祉の充実に貢献されご発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

地域福祉拠点としての役割に感謝

金沢市社会福祉協議会会長 奥 清



陽風園創立百二十五周年、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げ満腔の祝意をささげます。

又、私財を投げうって園を創立し、窮民救済にその生涯をささげられた創始者・小野太三郎翁の偉業をたたえますとともに、その精神を忘れることなく今に受け継ぎ、陽風園を近代的な社会福祉施設として、拡充発展させました歴代の理事長さんをはじめ、関係の皆様方に深甚の敬意を表します。

さて、わがまち金沢には善隣思想に代表されます公私協働と市民の連帯性という福祉特性がそれぞれの地域で豊かに育まれています。

昭和のはじめには多くの社会福祉事業家によりまして、善隣館の建設をみ、庶民階級に対する福利の増進と精神的教化運動がおしすすめられました。

一方、戦後にいたりまして、民間による保育所の開設が相次ぎまして、保育事業の水準も高く、次代を託す子供達の育成に大きな役割を果たしてきました。

このように、本市に於ける社会福祉事業が公私協働のもと、そ

の成果をあげ、実践されてきました。

その原点は、陽風園の祖、小野太三郎翁の「慈善の心」に源を発していきまして、尊きものを感じます。この心を無にしてはなりません。「慈しむ心」「分かちあう心」が現代社会につよく求められているのです。しっかりと受け継ぎ、人と人、地域に生きる者同志の心の絆を大切にして、太三郎翁の情熱によって培われた慈善の心を忘れず更に、福祉の輪を広げていかなければなりません。ときあたかも、平成十二年度より介護保険制度がスタートすることとなっておりまして、これにともないまして、陽風園も又転機をむかえることとなりますが、衆知を集められ、克服すべき課題をのり越え、太三郎翁の心に改めて思いをいたし、園の歴史と伝統をばねにして、更なる充実向上を期されますようご期待を申し上げます。

「年は流水の如く 去つて返らず

人は草木に似て 春榮を争う。」

終わりにになりましたが、陽風園のご発展を心よりお祈り申し上げます。お祝いのことばといたします。

二十一世紀の手本となる施設へ

石川県社会福祉協議会会長 嵯峨 逸平



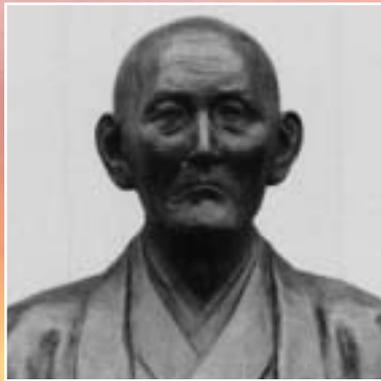
陽風園が創立されて百二十五周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴園は、百二十五年という永きにわたって福祉の道一筋に邁進してこられました歴史ある施設であります。近年は、遠大な施設整備に取り組み、安田理事長さんをはじめ、役員の方々の皆様方のためみ無いご努力とご尽力により、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、グループホーム、知的障害者更生施設、社会就業センター、お年寄り介護相談センターの開設等、社会のニーズに即応しつつ施設の拡充を図られ、石川はもとより全国の福祉の先駆的役割を担ってこられました。また、地域福祉の拠点として、地域密着型の福祉を实践され、県内数ある社会福祉施設のなかでも取り分け、日々活発な研修を実施され、職員の資質、利用者の処遇の向上に取り組み、着実に成果をあげられておられますことは、これからの社会福祉施設にとって大きな財産であり、関係者として多大な感謝を申し上げます。

我が国における社会福祉をめぐる動向といたしまして、児童福祉法の改正や介護保険法の設定などが行われ、今後の社会福祉の

基本的な考え方となる個人の自立支援、利用者による選択の尊重、サービスの効率化などを柱とする取り組みが進められているなか、中央社会福祉審議会が「社会福祉基礎構造改革について（中間まとめ）」を公表するなど、二十一世紀の社会福祉の対策に向けて検討が進められております。この変革期にあたり、百二十五年の永きにわたり蓄積されてこられました知識と経験や、また、日々研鑽されておられる専門技術を今後ますます発揮され、これからも福祉石川の先導的存在として、より一層発展されますよう祈念いたしました。お祝いの言葉とさせていただきます。

園史・沿革



まごころと優しさで積み重ねた
百三十五年の歩み

陽風園・歴代 理事長



園
祖 小野 太三郎



二代理事長
渡瀬 政禮



三代理事長
飯尾次郎三郎

「園祖・小野 太三郎」



小野太三郎経歴

天保十一年（二八四〇年）、金沢の中堀川町（現金沢市堀川町）で、小野太三郎は誕生した。

幼年期は気ままに振る舞い、朝から夕方まで遊んで過ごしていたが、少年期に、たまたま読んだ院本忠臣蔵の大序に、「嘉肴（うまい料理）ありといえど食せざれば其味を知らず」云々とあり、これに悟るところがあったという。

その後の太三郎少年は、四書經典餘師を購入して、暗唱するまでになり、大義に通じるようになる。また、和歌や美談を聴き、学問や道徳を蓄えたという。

十一歳のころ、近江町にて、亀が衆人から崇められ銭を投げ与えられている反面、哀れみを乞う老人を衆人は排斥、駆逐するのを見て、衆人の不人情に悲しむ。このことが、慈善の志を胚胎する理由のひとつになったといわれている。

十三歳の時、加賀候に仕えた。泳ぎが得意で、手づかみで活魚を捕え、仲間料理して食べさせたという。これによつて御膳方へ薦められる。

十六歳のころ、白内障を患い野町神明宮にて祈願を続け、百日目に神のお告げを感じて、奇跡的に治癒したという。

元治元年（一八六四年）、二十五歳のころ、凶荒があり、飢きんに瀕する衆人に自分のお金を施す。この頃、金沢市堀川町の自宅を開放し、生活に困窮する人を救養しており、救済活動開始の起源の年といわれる。

生活に難儀する目の不自由な人のために、明治六年（二八七三年）、三十四歳のころ、木ノ新保（現本町）に家屋一棟を購入し、二十数名を救養する。この小野救養所が、現在の陽風園に至る福祉施設の源流となる。

その後、四十歳のころ、私費を投じて家屋を六棟購入。翌年一棟をふやしている。

明治三十八年、六十六歳の時、卯辰山常盤町に

三千百坪購入、五百坪の屋舎「小野慈善院」を竣工、持家を売却し移転する。翌年財団法人となり、初代院長となる。

明治四十五年、七十三歳で死去する。

※年齢は数え年。参照…和田文次郎集「小野君慈善録」、小坂興繁著「金沢が生んだ福祉の祖「小野太三郎伝」



陽風園125年のあゆみ



(昭和7年)



(鳥瞰図・昭和29年)

明治6年

金沢市木ノ新保に家屋一棟を購入し、盲人20余名を収容

明治6年 徴兵令公布地祖改正条令

恤救規則制定

明治12年

金沢市彦三二番丁その他に家屋6棟を購入し、生活困窮者200余名を収容

明治12年 福田会育児院設立

明治18年2月20日

小野太三郎救育事業の功績により

藍綬褒章を受賞

明治20年 石井十次「岡山孤児院」設立

明治22年 大日本帝国憲法発布

明治27年 日清戦争（〜28年）

明治30年 片山潜「キングスレー館」設立

明治32年 横山源之助「日本の下層社会」刊行

刊行

明治36年 全国慈善事業大会開催

明治37年 日露戦争（〜38年）

明治38年8月1日

金沢市常盤町の敷地3,100坪に

建物500坪の新院舎竣工移転、

小野慈善院と呼称

明治39年7月4日

石川県知事より精神病舎設置の認可

明治39年10月29日

財団法人の認可を受け

小野太三郎、理事長兼初代院長に就任

明治40年7月8日

石川県知事より収容定員250名に変更認可

変更認可

明治42年9月25日

皇太子殿下御使いとして

侍従内田三吉氏 本院に御差遣

明治45年4月5日

院長 小野太三郎 逝去

金沢市長 渡瀬政禮、

理事長兼第二代院長に就任

大正2年3月28日

院所有の山地開き、

敷地409坪、建物116坪、収容定員

30名の幼年部院舎の新築工事竣工

大正3年 第一次世界大戦に参加

大正5年4月1日

幼年部を学校組織とし、

私立臥龍尋常小学校を開校

大正7年 大阪府方面委員制度を設置

大正8年6月6日

有栖川宮家より御下賜金下附

大正8年9月12日

第二代院長 渡瀬政禮 辞任

飯尾次郎三郎、理事長兼第三代院長に

就任

大正8年12月1日

東久爾宮家より御下賜金下附

大正9年9月29日

無縁塔を建設

大正12年 関東大震災

大正13年11月4日

摂政宮殿下御使い土屋侍従を本院に御差遣

御差遣

大正15年3月31日

私立臥龍尋常小学校を廃止

昭和4年 救護法公布

昭和6年 全国方面委員連盟結成

昭和7年 救護法施行

昭和7年6月22日

救護法の実施に伴い、救護施設の認可

昭和7年4月7日

石川郡崎浦村三口新（現金沢市三口新町）

に敷地6,547坪を購入

昭和7年12月26日

建物1,606坪の新院舎竣工

昭和11年1月28日

第三代院長 飯尾次郎三郎 逝去

昭和11年 二・二六事件

昭和11年2月27日

横井伊佐美、理事長兼第四代院長に就任

昭和11年4月20日

幼年部に農繁期季節託児所



七代理事長
橋本
外喜雄



四代理事長
横井
伊佐美



八代理事長
善
道



五代理事長
澤野
外茂次



九代理事長
安田
隆明



六代理事長
井村
重雄

- 昭和30年12月30日
収容寮(44坪725)作業棟(15坪75)竣工
昭和31年3月16日
石川県指令収福第530号をもって
児童福祉法にもとづく精神薄弱児施設の
設置経営認可
昭和31年3月31日
小野陽風園保育所を廃止する
昭和31年4月1日
精神薄弱児施設 あげぼの学園
(定員50名)を開設
養護施設児童部を若竹学園と改称
昭和32年 朝日訴訟開始
昭和32年1月10日
浴場、洗濯場、乾燥場(延48坪95)の新築
工事及び旧浴場、作業棟(110坪75)の
収容寮への改修工事竣工
昭和32年5月20日
薄井久氏寄附による収容寮1棟(50坪)
新築工事竣工
昭和34年12月10日
建物整備10カ年計画を立案
(後に8カ年計画に変更)
昭和35年 精神薄弱者福祉法制定
昭和35年9月21日
池田勇人総理大臣 中山マサ厚生大臣
視察
昭和36年 生活保護基準第17次改訂
(マーケットバスケット方式から
エンゲル方式へ)
昭和36年4月1日
石川県指令第110号をもって
若竹学園の定員を80名に変更
昭和37年3月31日
児童福祉法による養護施設 若竹学園を
廃止
昭和38年 老人福祉法制定
昭和38年8月1日
老人福祉法の施行により、
従来の生活保護法による養老施設は
老人福祉法による施設に切り替えられ、
老人ホームと呼称する。
昭和39年4月1日
厚生省収第176号をもって
精神薄弱者援護施設 若葉ホーム
(定員92名)を開設
昭和39年 オリピック東京大会開催
昭和39年5月30日
石川県指令民第1216号をもって
救護施設の定員192名を100名に変更
昭和40年 生活保護法基準第21次改訂
(格差縮小方式採用)
昭和40年1月1日
厚生省収社第748号をもって
特別養護老人ホーム(定員100名)を開設
養護老人ホームの定員298名を230名
に変更
昭和40年10月20日
お年玉つき郵便葉書寄付金配分金による
あげぼの学園の新寮舎(235坪30)竣工
昭和40年11月1日
石川県指令第788号をもって
精神薄弱児施設 あげぼの学園の定員50名
を70名に変更
昭和41年6月1日
石川県民収第1170号をもって
養護老人ホームの定員230名を270名
に変更
昭和42年 朝日訴訟最高裁判決
昭和43年5月1日
特別養護老人ホームの定員100名を
120名に変更
昭和43年6月8日
社会福祉法人小野陽風園の「概要」を発行
昭和43年6月9日
園祖 小野大三郎翁顕彰碑の除幕式を
挙行
建物整備8カ年計画事業完成落成式を
挙行(以降この日を園祭とする)
昭和44年4月1日
社会福祉法人 小野陽風園を
社会福祉法人 陽風園に変更
昭和45年 日本万国博覧会開催
昭和45年3月31日
精神薄弱児施設 あげぼの学園を廃止
昭和45年7月1日
特別養護老人ホームの定員120名を
205名に変更
昭和46年 「社会福祉施設緊急整備
5カ年計画」実施
昭和46年4月23日
診療所 19床 一部の変更認可
昭和47年 オリピック札幌大会開催
昭和47年3月22日
第六代理事長 井村重雄 逝去



(天皇陛下行幸・昭和22年)

三〇新町託児所(託児数35名)を併置
昭和11年9月15日

常盤町旧院より無縁塔を新院に移転
昭和12年 日中戦争 救護法改正

昭和16年 太平洋戦争(〜20)

昭和17年 戦時災害保護法制定

昭和19年10月10日

石川県知事より向う一力年、

戦災疎開者に対し空室貸与の認可

昭和20年 GHQ 救済及び福祉計画に

関する件覚書 生活困窮者緊急

援護要綱作成

昭和20年4月10日

愛知県集団疎開者「避難民」

65名を受け入れ

昭和20年10月11日

愛知県集団疎開者全員引き揚げる

昭和21年3月12日

恩賜財団戦災援護会石川県支部長と

建物10棟(延坪433坪)を、向う三力年間、

戦災者及び外地引揚者に対し貸借契約

成立

昭和21年 第二次農地改革(〜25年)

(旧)生活保護法制定

昭和22年 日本国憲法施行

第1回共同募金実施

児童福祉法制定

昭和22年7月10日

石川県知事より

生活保護法による収容保護施設の認可

昭和22年7月23日

第四代院長 横井伊佐美 逝去

昭和22年10月5日

金沢市長 沢野外茂次、

理事長兼第五代院長に就任

昭和22年10月29日

天皇陛下北陸巡行行幸の際御視察

(午後4時35分御着、午後4時45分御退出)

昭和23年 民生委員法成立

昭和23年1月1日

児童福祉法により、

幼年部は養護施設に認可

昭和23年2月7日

第一回共同募金配分金受領

昭和23年4月13日

一人入所の失火により男子寮、女子寮、

浴場、被服庫、炊事場、夫婦寮等10棟

(約830坪)を焼失

昭和23年9月14日

収容棟4棟、炊事場、浴場理髪室各1棟

他付属建物等770坪75の

焼失建物復興工事竣工

昭和23年9月29日

高松宮殿下 施設の状態を御視察

昭和23年12月28日

石川県指令収厚第846号をもって、

財団法人 小野陽風園と改称

昭和24年4月8日

石川県指令収衛第411号をもって、

診療所の設置経営の認可

昭和25年 生活保護法改正(新法実施)

昭和25年9月15日

金沢市金石町河合辰五郎氏寄贈による

礼法室(20坪5) 新築工事竣工

昭和25年9月25日

収容寮2棟(204坪75) 新築工事竣工

昭和26年 社会福祉事業法制定

昭和26年8月8日

収容寮、静養室 各1棟(178坪25)

新築工事竣工

昭和27年2月16日

本園篤志理髪師 今田与三松氏

社会事業功労者として藍綬褒章を受賞

昭和27年3月29日

石川県指令収児第238号をもって

保育所設置経営の認可

昭和27年4月1日

保育所(定員50名)を開設

昭和27年5月9日

厚生省指令石社第13号をもって財団法人

組織を社会福祉法人組織に変更認可

昭和27年7月10日

農地法実施により土地478坪84を売却

昭和28年8月1日

高松宮妃殿下 施設を御視察

昭和29年4月10日

社会福祉法人 陽風園

創立80周年記念式典を挙行

昭和29年4月19日

第五代園長 沢野外茂次 逝去

昭和29年5月15日

金沢市長 井村重雄、

第六代理事長に就任

昭和29年11月1日

石川県指令収福第1407号をもって生活

保護法にもとづく救護施設の設置経営認可



ハビリポート若葉御視察の折り、作業中の入居者に笑顔で話しかけられる皇后陛下



ハビリポート若葉正面玄関にて、御退出の天皇皇后両陛下をお見送りする理事長

万陽苑の事業変更の認可

平成5年7月1日

日本自転車振興会補助による

特別養護老人ホーム第三万陽苑

(定員150名) ショートステイ20名を

三小牛町に開設

特別養護老人ホーム万陽苑の定員

320名を190名に変更

平成5年8月1日

日本自転車振興会補助による

第三万陽苑デイサービスセンター(B型)の

開設

平成6年 エンゼルプラン策定

平成6年4月1日

精神薄弱者地域生活援助事業

グループホーム スターツもみじを開設

平成7年 障害者プラン

(フーマライゼーション7カ年戦略)

策定

平成7年7月7日

戦後50年記念事業、タイムカプセル埋設式

を挙行

平成7年11月1日

精神薄弱者更生施設 若葉ホームを移転し

知的障害者更生施設 ハビリポート若葉

と改称

日本船舶振興会補助による

知的障害者更生施設 ハビリポート若葉

(定員210名)短期入所4名を別所町に

平成8年4月1日

社会就労センターあけぼの作業所

(定員30名)を開設

万陽苑デイサービスセンターを開設

老人介護支援センター

陽風園お年寄り介護相談センターを開設

知的障害者地域生活援助事業

グループホーム スターツあおばを開設

平成8年9月18日

天皇皇后両陛下石川県行幸啓

(第16回全国豊かな海づくり大会)の際、

ハビリポート若葉を御視察

(午後1時30分御着、午後2時30分御退出)

平成9年 介護保険法成立

平成10年4月1日

社会就労センターあけぼの作業所

定員30名を37名に変更

平成10年10月15日

社会福祉法人 陽風園

創立125周年記念式典挙行

昭和47年4月1日

橋本外喜雄、第七代理事長に就任

昭和48年 石油危機で狂乱物価

老人福祉法改正

(70歳以上医療費無料化)

昭和48年4月1日

精神薄弱者援護施設の定員92名を

120名に変更

昭和48年6月1日

特別養護老人ホームの定員205名を

250名に変更

精神薄弱者援護施設の定員120名を

170名に変更

昭和48年12月1日

在宅老人機能回復訓練開始

(特別養護老人ホーム)

昭和49年4月1日

特別養護老人ホームの定員250名を

300名に変更

養護老人ホームの定員270名を

240名に変更

昭和49年9月25日

常陸宮殿下御夫妻御視察

昭和49年11月15日

社会福祉法人陽風園

創立100周年記念式典挙行

昭和50年4月1日

特別養護老人ホームの定員300名を

330名に変更

昭和51年 ロッキード事件

特別養護老人ホームの定員330名を

364名に変更

昭和54年 国際児童年

昭和54年4月1日

精神薄弱者援護施設の定員170名を

190名に変更

昭和55年2月1日

特別養護老人ホームの定員364名を

370名に変更

昭和56年 国際障害者年(完全参加と平等)

昭和57年 老人保健法制定

昭和57年4月1日

3施設の固有名称を以下のように

呼称する

養護老人ホーム 向陽苑

特別養護老人ホーム 万陽苑

救護施設 三陽ホーム

昭和59年 生活保護基準第40次改訂

(水準均衡方式採用)

昭和59年4月1日

万陽苑において在宅入浴サービス事業開始

昭和60年 国民年金法の改正

(基礎年金制度)

精神保健法(精神衛生法を改称)

昭和60年7月1日

特別養護老人ホーム第二万陽苑

(定員150名)を大桑町にて開設

特別養護老人ホーム万陽苑の定員

370名を320名に変更

昭和62年 社会福祉士及び介護福祉士法制定

昭和63年10月1日

園章の制定

第七代理事長 橋本外喜雄、辞任

平成元年7月11日

善道、第八代理長に就任

平成2年11月9日

社会福祉事業功労者厚生大臣表彰

(精神薄弱者福祉功労団体)

平成3年 ソ連邦の消滅

平成3年4月1日

若葉ホームで心身障害者巡回療育相談等

事業、精神薄弱者社会自立モデル事業を

開始

平成3年6月30日

第八代理事長 善道、辞任

平成3年7月1日

安田隆明、第九代理事長就任

平成3年11月1日

万陽苑、第二万陽苑で

老人短期入所促進事業を開始

平成4年1月1日

万陽苑、第二万陽苑で

介護ヘルパー設置促進事業を開始

平成5年5月5日

陽風園の信条「私たちの信条」制定

平成5年6月24日

精神薄弱者援護施設を

精神薄弱者更生施設 若葉ホームに

名称変更

平成5年6月30日

石川県指令第720号により

特別養護老人ホーム 第三万陽苑の

設置認可

用者が少なくなるにつれて、定員を減らして
いつて昭和三十七年には廃止になりました。
だんだん子供達が減っていくのが寂しかったの
を覚えています。

任田 若竹学園は廃止になりましたが、そ
れまでの間事故がなくて本当によかったと思
います。小学校の成績が良くて、学校から表
彰された子もいます。その当時は我がことの
ようにうれしくて、今でもその時の写真を大
切にしています。

仕事は大変でしたが、皆住み込みで一つの
家族のようでした。担当は一人ですので、休
みで留守にする時は隣の担当職員に頼んだり
して助け合っていました。

吉田 治

■在職期間／昭和二十七年六月一日
～平成五年三月三十一日（四十年十ヵ月間）

「陽風園回顧」

私が陽風園に勤務したのが昭和二十七年、
今と違い交通事情も悪く、市内電車を小立野、
大病院前で降りて、徒歩約三十分、当時の
小野陽風園にやってきました。当時職員
は百名にも満たない数でしたが、その大半が
住み込みで勤務し、非常に家庭的で、和やか
な雰囲気や、まとまりといったものを強く感
じました。

思えば明治六年、大先覚 小野太三郎氏に
よって創設されて以来、百二十五年、歴史は
余りにも長く、その間貧しい時代が長かった
だけに、人々の陽風園に抱く「イメージ」は、



昭和36年度春期大掃除
園内外の消毒をするため、浦波町から借りた動力噴霧器を正面玄関
前にて点検中。

大変暗いものがあつたように思います。特に
終戦前後の数年間、厳しい食料事情の中で
飢えをしのぎ、少しでも作業の可能な者は、
毎日の労働に駆り出されていた苦難の一時代
がありました。しかし、今は近代的設備とし
て、その内容外観共に一変し、現在の陽風園
を見る限りその影さえも止めず、全く過去の
悪夢としか思えないくらいです。今、当時を
振り返ってみますと、楽しかったこと、苦し
かったこと等いろいろありますが、歳月の経
過はその時々苦しみや哀しみを忘れさせて
くれるばかりではなく、今はすべて懐かしい
昔の思い出となっています。

陽風園には、「職員は、至誠慈愛の心を以
て親切に徹し、在園者は、謙讓感謝の心を以
て明るく生きん」とする伝統が、多くの先人
によって確立され、園祖の貴い精神が今に継
承されています。

ご承知のように、これからは高齢化の急速
な進展や、介護保険法の施行など、福祉をと
りまく環境も二十一世紀を目前に激動の時代
を迎えつつあります。このような中で、陽風
園がこれからも歴史と伝統を護り、更なる発
展をされることを願って止みません。

松田 和子

■在職期間／昭和二十五年九月一日
～昭和五十九年三月三十一日（三十二年六ヵ月間）

「あの頃のこゝろ」

私は昭和二十五年九月一日に看護婦として
採用され、昭和五十九年三月三十一日の定年
退職までの約三十四年間を勤めさせて頂きま
した。今改めて栄えある百二十五年の歴史の
一翼を担えたことに幸せを感じます。

園の正面玄関は今の万陽苑楓寮のところに
ありました。左側に事務所、右側に医務室、
左側奥に児童部、その右側には養老部の部屋
がありました。建物は木造平屋造りで、所々
に節穴が空き建てつけも悪く、冬には冷気や
雪が吹き込みとても寒かったのを覚えており
ます。着るものと言えば、フラ物資（アジア救
済連盟による物資）と言うアメリカ等から払
い下げられた色とりどりのワンピースや衣服
などを着用し、履き物は藁草履と言った格好
だったと思います。布団等は真綿を打ち直し
自分たちで縫っていました。また空き地では
食材確保のため野菜などを皆で作っておりま
した。

医務室は医師一名、看護婦四名でした。仕



事内容は主に眼科治療、洗眼、雑用等で、一
日に二十名から三十名位の診察だったと思ひ
ます。泉野の陸軍や個人の病院の経験しかな
かった私に老人ホームの仕事が勤まるのか不
安だったのを記憶しています。慣れない施設
の業務に、よく医師や上司のご指導を頂きま
したが、住み込みの職員も多くまた寮内もし
っかりした方によく纏められ施設内の雰囲気
も家庭的でしたので楽しく仕事が続けられた
ように思います。本当に全てが暖かく懐かし
く思えます。

住まいが園の近くですから買い物先での入
居者との出会いも懐かしく、また消防車が園
の方角へ向えば心配にもなります。遙か園祖
からの百二十五年、時流と共に様変わりは致
し方ありませんが園が益々ご発展継続されま
すことをお願いし、お祈り申し上げます。

陽風園の思い出

退職者からのメッセージ

芝木 綾

■在職期間／昭和二十九年四月一日
～昭和四十八年三月二十八日（十九年間）

「思い出」

私は河北郡の生まれですが、縁がありまして富山の方に嫁ぎました。しかし、富山大空襲で焼け出されました。そして、悪いことが続き、夫も病気でなくなりました。二人の子供を抱え、終戦後の苦しい時代を一生懸命生きました。職場も二、三ヶ所変わりました。そんなとき、それは昭和二十九年の四月なんですけど、陽風園に就職しました。最初は児童部に勤めました。中学生と小学生の二人の子供を連れての住み込み生活です。七輪に火をおこしながらご飯を作ったりもしました。

でした。そんな時は仕事の事も忘れて大いに楽しみました。

そうそう、こんな事がありました。よその施設で子供が自殺したことがあったんですがうちでなくてよかったです、職員同志で喜びました。問題の給料の安さだけはどうにもなりませんでした。でも、良い職員が多くて、また、仲間内での喧嘩もなく、仲が良かったので働きやすかったです。

いずれにしても、子供二人を連れてお世話になり、また、定年まで居させてもらった陽風園には口で言い表わせないほど感謝しています。今は当時一緒に働いていた仲間と思い出を語り合えれば最高だと思っています。

中川 利明

■在職期間／昭和二十八年三月十六日
～平成四年三月三十一日（三十九年間）

任田 可代

■在職期間／昭和二十四年二月十日
～昭和四十九年七月一日（二十五年間）

「若竹学園の思い出」

任田 陽風園に勤め始めたのは昭和二十四年です。職員の募集をラジオで聞いて応募し



ました。養護老人ホームでも働きましたが、児童部の頃のことが一番思い出に残っています。中川さんも同じ職場にいらつしやいました。中川さんも同じ職場にいらつしやいました。中川さん、あの頃はどちらの担当でしたか。

中川 児童部は生活単位毎に十名くらいの子供がいて、「家」と言っていたように思います。花の木の名前をつけた十二の「家」があつて、それぞれ一名、一部は兼任で担当していました。就職したのは二十歳の頃で昭和二十八年でしたが、わたしは「菊・紅葉の家」担当でした。その頃任田さんは「梅の家」担当でしたね。

任田 はい。職員が少ないこともあつて仕事は大変でした。今のように電気製品もあり

ませんし、子供達と一緒に部屋で住み込みで働いているので勤務時間もはっきりせず、二十四時間勤務のようなもので、身体をこわす職員も少なくありませんでした。

中川 二十四時間職場にいたので、休みの日に外へ出るのが休養になりましたね。あの頃は皆住み込みで、陽風園に限らず他の福祉施設も職員は住み込みだったように思います。風呂を沸かすのも薪だったか石炭だったか忘れましたが、職員が交代で沸かしましたし、市役所に用事がある時も後にバイクが入るまでは自転車で行き来していました。ほかには内灘の海水浴場に行事でキャンプに行つた思い出が印象に残っています。夜中に雷がなりだして、どしゃぶりの雨の中を歩きました。

任田 わたしたちは熊走でキャンプしましたが、やはり雨に降られてしまい、ずぶ濡れになって歩いたこともありました。

任田 元気な子供達が生活していましたので、畳も随分傷んでいました。

任田 養老部に入所していた方が時々直しに来てくださいましたね。

中川 大工仕事など技術を持った人がいろいろ協力してくださっていました。

児童部は今の万陽苑の辺りにあつて、昭和三十一年に若竹学園に改称しましたが、利

施設紹介



地域との交流を深めながら、
福祉の充実を図っています。



和室にて

水墨画

「余計な事を考えないので楽しいです。
完成した時の喜びはひとしおです」

趣味を楽しむ

趣



園芸

「身体にも良いし、
楽しみでやってます」

庭にて



自室にて

縫いぐるみ

「楽しみとボケ防止のために
やっています」



台所にて

料理

「昔の事を思い出しては、やっています」

養護老人ホーム向陽苑は、原則的に65歳以上の方が利用されている施設です。ここでは一部介助を必要とされる方、又は経済上の理由で入所された方など様々ですが、施設の開放的な雰囲気から皆さんそれぞれ毎日いきいきと過ごされています。

日常生活では、一人ひとりの個性を尊重し、自立した生活を送って頂けるよう配慮しています。例えば、各種クラブ活動や地域行事への参加、また、日常での散策・買物などが挙げられます。

環境面では、金沢市内の閑静な住宅地にあり周囲を緑に囲まれ、歴史ある施設がうまく調和しています。

このような恵まれた環境の中で、お年寄り一人ひとりが明るく楽しく生活して頂けるようにこれからも努めていきたいと思えます。

自立生活を適切に援助
一人ひとりの自主性を尊重し
常に敬愛の心を持って…。





保津川下りのスナッフ



「盆踊りにて」



“新春運だめし”



皆で祝福「誕生会」「ふ〜」



「施設演芸大会にて」

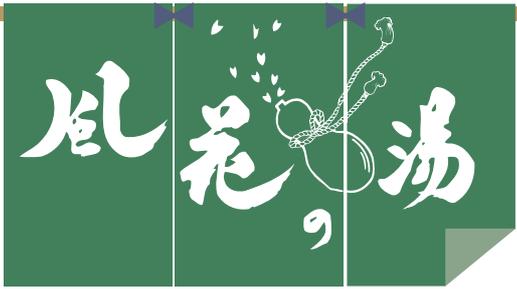


涼を求めて…

楽しみ三昧
作る楽し
観る楽し
見せる楽し
あなたも一緒
楽しんで
見よう

地域との交流の場
(陶芸教室)





大浴場



洗い場

平成10年4月より
新しいお風呂が誕生し、
沢山の方の笑顔に出会えました。



機械浴



リフト浴

離床がすっかり生活の中に定着し、ほとんどの方が午前中はリハビリまたはミニレクリエーションに参加し、午後からは余暇活動に当たっています。

リハビリテーション

日常生活における動作の維持・回復のため、運動療法と物理的療法を行っています。また、対話しながらのリハビリを大切にし、歌を歌ったり、カルタ取りをしたり等、遊びの中から笑いを大いに引き出し、心のリハビリにつなげています。

ミニレクリエーション

日付確認や一人ひとりの自己紹介から始まり、その後はその日の進行職員によって内容は様々です。大人数のためゲーム的な要素のものはなかなか難しいですが、歌や体操などは簡単に楽しめ、レクリエーションには欠かせません。遊びを通しての入居者との関わりは、いつもと違った一面に出会えます。

余暇

主に食堂にてビデオ鑑賞をしながら、お茶を飲み、くつろいでいます。



万陽苑

かけがえのない一人ひとりの
生活が
万陽苑での歴史となり
未来へと息づいていきます。

お風呂

お風呂はふたつに分かれています。「陽だまりの湯」が機械浴とリフト浴、「風花の湯」が大浴槽と中浴槽と一人浴槽となっています。一人ひとりの身体の状態に合わせて浴槽を選ぶことができますので、入居者の方にとってADLの向上につながり、職員にとっても介護の負担が少なくなりました。また、風花の湯は、水曜日以外、毎日入浴できるように準備されており、ほぼ自立されている方は、好きな日に入浴ことができ、皆さんにとっても喜ばれています。



ホームヘルプサービス

長年住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたいと思うのは、多くの人々の共通の願いではないでしょうか。ホームヘルプサービスは、当苑の経験豊富なスタッフが訪問し、必要な身体介護や家事の援助を行うサービスであり、高齢者の世帯やひとり暮らし、また、日常生活で不自由があるお年寄りの生活をお手伝いします。

配食サービス

在宅のお年寄りにお弁当をお届けするのが私たちのサービスです。食べられる皆様の顔を思い浮かべ手作りの暖かいお弁当を目ざしています。お届けしたとき「おいしかった」と言われると嬉しくなります。



リハビリテーション

万陽苑で入居されている方以外に、デイサービスのご利用者や、在宅の方にもご利用して頂いています。職員は生活機能の維持、向上を目的とした訓練だけでなくコミュニケーションを大切にし、多くの方々を集い集める場所となるよう日々、努力しています。



移送入浴

私たちがお年寄りや障害をお持ちの方をご自宅から施設まで送迎し、入浴していただくサービスです。1カ月に2〜3回の入浴ですが、ご利用者及びご家族の方に喜ばれています。



訪問入浴

私たちがご自宅まで浴槽をもって出張し入浴していただくサービスです。始めは戸惑いと不安を見せられていたお年寄りも今では「気持ちいい」と手を合わせ喜ばれています。



ショートステイ

お年寄りを介護しているご家族の方が家事の都合や病气、介護疲れ、冠婚葬祭、旅行等で介護が出来ない場合にお年寄りを短期間、ご家族にかわってお世話しています。

いつも、笑顔に包まれて、
楽しく過ごすひととき。

在宅福祉サービス

デイサービス

万陽苑デイサービスセンターは、平成8年4月開設しました。

当初はご利用の方が、どのくらいいらつしやるのか…という思いもありましたが、地域柄か今では、大勢のご利用をいただいています。職員は常に笑顔を忘れず、ご利用者が安全・安楽・安心・快適に過ごせることを念頭におきながら、共に楽しむことをモットーにしています。一日の流れの中で、レクリエーションの時間は特にお互いの素顔が見え、時には良き仲間、時にはライバルとして一緒に楽しんでいます。また、人生の大先輩であるご利用者の方々が体験した貴重なお話や、俗に言われるおばあちゃんの知恵袋もご披露頂くこともあります。デイサービスが、お元気に在宅生活を送る一つのよりどころであればと思います。



「ボランティア」

私たちは開設以来、ボランティアという多くの「心の手」
によって支えられ、守られてきたように思います。
そして、いつもそこには飾り気のない笑顔がほのぼのと
ありました。



お茶会ボランティア



清掃ボランティア



家族会



納涼ボランティア



舞妓訪問



歌謡ボランティア



園児訪問



学生ボランティア

特別養護老人ホーム 第二万陽苑



第二万陽苑は昭和60年7月1日に大桑町に開設し、150名の入居者と共に13年の年月を重ねてきました。建物は、医王連峰や眼下に映える犀川が展望できる高台に立地し、自然環境に恵まれています。

私たち職員は、入居者の方に生きがいを持ちながら自立した生活を送って頂けるよう、生活リハビリとして離床を勧めるとともに、自発的におしぼりや洗濯物たたみ、食堂でのテーブル拭きや掃除などのお手伝いをして頂いています。毎日お手伝

いをして下さる方の「身体のためにさせてもらっている」という嬉しそうな声を聞くと、職員も一層仕事に張り合います。

また、私たちは苑の毎月の行事に協力して下さる家族会の皆さん、集いや行事での余興をはじめ、理容・苑内清掃等たくさんのボランティアの皆さんの温かいお気持ちとご好意に支えられており、感謝の気持ちで一杯です。

入居者一人ひとりが、自立した生活や健康で過ごすことができるように援助や介護をさせて頂きたいと、職員一同考えております。そして、ご家族の方々・入居者の皆さんが安心できる生活の場を創るとともに、150名一人ひとりのことを常に大切に思う職員でありたいと思います。





テーブル拭き

洗濯物たたみ

毎日たくさん洗濯物をたたんでくださっています。「乾いたものはないの？」と職員に聞くこともしばしば。



食堂掃き掃除

すみずみまできれいにしています。



ほら、ここにも
笑顔がいっぱい

私たちは、あなたの笑顔にどれだけ助けられているだろう
つらく、くるしい時があっても
あなたの笑顔を見ると、
なぜかホッとします
あなたの笑顔でつくる歌声を聴くと
心がやすらぎ、
勇気がこみあげてきます
あなたが笑い、私が笑い
笑いにさそわれ、人々が集う
私たちは、あなたと共に
いまを生きるために
いつまでも笑顔でありつづけたい



「ここでは、 生活そのものがリハビリ」

「自分の出来ることならさせてもらいます。」といい、自主的にお手伝いをしてくださる皆さんのお気持ちに職員一同喜んでいきます。勝手ながらその作業の一つ一つがお手伝いというより、個々の生活の一部となっているように思います。

機械・器具等を利用したりハビリよりも、洗面・歯磨き・洗濯物たたみ等々、日常生活そのものが本人の残存能力を引き出すと私たちは考えています。

個々の生活リズムを大切にして出来ることを見つけ、伸ばしていけるよう心掛けていきたいと思っています。



テーブル拭き
食事の終わった食堂で、テーブルを拭いていただいています。

エプロンたたみ

エプロンを丁寧にたたんでくださる方々。
会話も弾み、笑顔が見られます。



エプロンつけ

エプロンをみんなにつけてくださる様子。
みんなからは「ありがとう」の声が。



おしぼりたたみ おしぼりたたみの様子。

めたりしている姿も見られます。

また、現実的な実践によって生活障害の改善をはかる（MRO活動）ため個々のケアには、力を入れており、その方の長年の生活習慣の中で潜在的な能力を引きだす効果につながっています。

また地域社会にとって、有用な社会資源となるよう苑の設備や機

能を開放し、地域福祉の向上に努め地域社会との交流もさかんに行われています。

第三万陽苑 デイサービスセンター

当デイサービスセンターは特養と併設されており、浴室、食堂（くつろぎホール）、トイレ等、殆どの場を共有しており、ホーム入所者の方々と交流できます。

ショートステイ利用時も顔見知りのスタッフと使われた設備の中で安心してご利用いただいています。

毎月の誕生会やその他行事を合同で行う事もあり、交流が自然に促進されるようにしています。コーラスの集い、カラオケの集いについては、ボランティアの方々を中心として活動しており、趣味的なアクティビティサービスも実施しています。

入浴については週に数回利用している方でも利用毎の入浴が可能であり、利用者や家族から大変喜ばれています。

山間地であり、送迎時間が業務の中でかなりのウェイトを占めており、それによる利用者への負担も軽くなく、送迎時間をいかにして短縮し、利用者への負担を軽減

させるか追求し、ハード・ソフト両面の充実を図りたいと思っています。

今後の介護保険導入にあたり、利用者のQOLの向上と自立支援に向けてサービスを提供し、介護者の身体的、精神的な負担の軽減を図り、今後とも「笑顔で接遇」をモットーに在宅福祉の充実に貢献して行きたいと思えます。



特別養護老人ホーム

第三万陽苑

「☆☆☆☆☆5つ星」

特養ホームを目指していきます。

本園のある三口新町から山間部へと約7km。竹の子の里である内川地区に、第三万陽苑があります。

峰々に囲まれた大自然。四季折々の美しい風景。テイルームから見える朝焼けはとてすばらしく、時に野生動物(カモシカ、キツネ、キジなど)にも出会えます。

居室は個室か2人部屋で共有空間もゆつくりととられています。個室を利用されている方は、趣味を充実することができ、自分の時間ももてるということで、とても喜ばれています。

現在男性31名、女性119名の方が入居されており、ショートステイ14名、デイサービスは、15名程の方が利用されています。疾患や障害などさまざまな要因で、ここに生活している皆さんはその要因を特別視することなく個々人、他者を認め合って生活しています。生活障害を持っていて、

自分の部屋がわからない方に自立した人が部屋を教えたり、食事がなかなかすすまない人に自分のペースで食事をとるようすす





笑顔！笑顔！笑顔！

入居者と
職員の笑顔が
第三万陽苑の自慢です。

一人ひとりの入居者が、
その人らしい生活ができるように…。
家族にはおよばないかもしれない、
でも、私たちは
家族の次になれるような
介護者になりたい。
入居者にとって生活しやすい、
そして職員にとって働きやすい
第三万陽苑。
快互でありたいと思います。
「☆☆☆☆☆☆5つ星」特養ホームを
目指していきます。



料理の集い おいしそうでしょ!!

……
こんな楽しみが
いっぱいです。

料理／コーラス
俳句／生花
書道のつどい

また花見、旅行、夏祭り、
模擬店、福引き大会、ゲーム
大会など年間の行事も盛り
沢山です。



おはぎ作りに挑戦

施設の扉を大開放!!

内川地区主催の「たけのこまつり」の参加をはじめ、
内川小学校、内川公民館の文化祭などに出掛けます。
毎年恒例の未町青
年団による「ひよひ
よいだいこは、夏ま
つりには欠かせない
ものとなっています。
まためぐみ幼稚園
の園児たちの発表会
も、入居者の皆さん
の楽しみになっています。



めぐみ幼稚園 園児訪問



うまく折れるかな？

入居者の声

FHさんの場合…

「個室でできる趣味

一人の時間の充実感」



頸椎損傷で左手しか使えなくなった私。どうやって生きようかと何年間も苦しみました。家族に迷惑をかけるのが嫌で第三万陽苑で生活することになり、はや5年。「敬老の日」という字を和紙ではつたのがきっかけで、ちぎり絵が今の私の生きがいとなりました。また俳句のつどいも楽しみのひとつです。私は自然が大好きで元気な頃は山菜取りによく山に行きました。その時の思いを俳句にし、その時見た山々をイメージし、ちぎり絵に生かしています。ちぎり絵の下絵は時々寮母さん handed もらったりして、昨年は社会福祉利用者余技展覧会に出品し社会福祉協議会会長賞をいただきました。

苑のあちらこちらに私の作品が飾られとてもうれしく思います。そして何と言っても個室でできる趣味。一人の時間が充実できる第三万陽苑の生活に感謝の気持ちでいっぱいです。

SNさんの場合…

「できることは自分でやる」

開設時より入居、今年で5年になります。私の楽しみは今カゴ作り。物品の梱包用のビニールひもを見て何か作れると思ひ、始めたのがきっかけです。最初は小さな小物入れから作り出しました。今では大きなカゴも作り



そのカゴは、オムツカバー入れになったり、シーツ入れになり台車にセットされたりと、いろいろ利用されています。

自分の作ったものが役に立っていると「作る喜び」そして「また頑張ろう」と思う気持ちがあります。私は下肢が不自由で毎日痛みを感じていますが、カゴ作りをしている時は痛みも忘れていきます。自由に動く手。この手が動く限り、できることは自分でやろうと思えます。

●施設の紹介



野点のお茶会 着物でちょっと気取ってみました。

受け皿といわれる生活保護制度です。しかし、現に困窮している方々や急迫な状態にある方の中には、ただ単に経済的保障をすれば事足りるということでは済まない方が多くいます。(ましてや過酷な指導や取扱いをすべきではないというのは言うまでもなく)これらの方々が人間らしく暮らしていきけるように、また、人としてたゆまない発達ができるように我々ホームの職員は、時代に見合った社会福祉を追求する実践の成果に学び、最新、最良の方法を用いて、きめ細かい対応ができるように頑張ります！

人々が安心して生きていくために最後の拠り所となる最低生活の保障場面にこそ、最も生き生きとして、温かく、叡智に富んだ生存権保障の手立てに満ちていなければなりません。……。



こんなに大きいサツマイモが穫れた！早く食べたいな…。



兼六園のお花見は、何回来てもいいね～。



三陽ホーム

温かく、叡智に富んだ きめ細かな対応で。

当ホームの利用者は極めて多種多様です。個々のニーズに応じて我々は日々様々なサービス提供を展開させるべく試行錯誤する毎日です。今年度はホームの改装工事をはじめ重度障害者を対象とする生活リハビリの導入、ステンシル作品の製品販売、社会復帰及びグループホームの実施等に関して取組んでいます。

生活保護施設という特殊性から、我々職員はいかに利用者に対して関わっていったらいいのか。施設利用者は、身体障害者、精神障害者、知的障害者であり、重複障害者も多く、年々重度化、高齢化が進んでいます。さらに、精神障害回復途上者や、アルコール依存症者を援助対象者とする数少ない施設でもあり、特に、前者は精神病院退院後のフォローという意味もあつて近年はそれに対応する職員の専門性の向上にも力を注いでいます。そして、利用者の入所理由への理解にも慎重な姿勢で対応することが必要とされています。

社会の発展とともに新たな生活問題が、次々と生み出されます。他の社会保障制度では対応できず、生活困難に陥った場合、その方々を受け入れるのは最後の



年間行事

春

- ・花見
- ・日帰りバス旅行
- ・北陸三県救護施設親善ソフトボール大会
- ・小運動会



地域の小学校の児童が参加しての夏休みチャレンジ教室は今年で3回目を迎えました。皆が挑戦したのはステンシル。すてきな作品ができました。



6月恒例の小運動会。お菓子取りゲームでは、みんな子ども時代にかえってお菓子めがけて走りました。



夏

- ・納涼行事
- ・チャレンジ教室



利用者のご家族や地域住民を招いての三陽11月祭はボランティアの方のお手伝いもあって毎年大盛況です。おでんの味も最高!



毎年参加している社会福祉施設演芸大会での一場面です。戦後50年、石川の祭りをテーマにした劇で最高賞の県知事賞を受賞しました。



秋

- ・秋の旅行
- ・施設演芸大会
- ・北陸三県救護施設入所者運動会
- ・三陽11月祭

冬

- ・年忘れ会
- ・新年会
- ・輪投げ大会
- ・作業収益還元旅行

お花見

満開の桜の下で撮りました。毎年兼六園でお花見です。



清掃ボランティア

三陽ホームでは毎月地域の道路や公園の清掃ボランティアを行っています。自分たちができることから始めて、地域との交流を深めたいと思っています。



作業内容・年間行事

園芸班

ここは南国？北陸？



出たら「芽」大きく育て！

カトレア等の洋ランをはじめハイビスカスやバナナ等南国の植物が育つ温室。一鉢一鉢心を込めて水やりし、季節毎の植替等を自分の手で行います。色鮮やかな花壇の草花も丁寧に世話して見ます。出たら「芽」大きく育て！

神秘的な進化を遂げてきた生命の不思議。植物たちとふれあい、成長を見まもりながら、社会自立・地域参加に向けて日々励んでいます。皆さん一度温室へ足を運んでみては？

室内作業班

自立の可能性を求めて、今日もがんばっています。

室内作業の内容をご紹介します。紙袋作り(レントゲン袋・手さげ袋・鯖寿司袋・笹ちまき袋各種)箱折(ギフト箱・菓子箱)結納飾袋入れ等をメンバー80人で分業しています。業者10社の工賃内職作業のため時期により忙しい時もありますが、3月の作業収益還元旅行を楽しみに頑張っています。



ステンシル班

かわいい小物がいっぱい！

ステンシル？聞き慣れない言葉ですが、これは簡単に言うと、型紙を使って模様を描く型染めのことです。三陽ホームでは、3年前から地域交流、社会参加を目的に自主製作品として、このステンシル製品を地域即売会や福祉ショップ等で出店、販売を行っています。自分達の作った製品を

気に入って買ってくれる人達の笑顔が楽しみであり、今日のはげみとなっています。



いらっしゃい！笑顔も売ってます。



即売会での出品作、上手でしょ！

リサイクル班

パンク修理ならリサイクル班にお任せを…！！

三陽ホームには、放置自転車の修理・整備などに取り組み「リサイクル作業」があります。放置自転車の殆どが錆付いてボロボロなので、一台の自転車を仕上げるのに、一カ月以上かかる場合もありですが、一生懸命頑張っています。また、最近では車椅子の定期点検・整備も行っています。



新車のようにピカピカです！

●施設の紹介



烏骨鶏飼育 卵ってどんな味？

豊かな自然の中で
豊かな心を育てます。



園芸実習 今日は何を植えるの？



農耕実習 豊作！豊作！



室内作業実習 箱折りや箸入れ等、流れ作業で仕事を分担



くつろぎのひととき



楽しく食事



知的障害者更生施設

ハビリポート若葉



地域での生活を支援します。

グループホームは、地域の中で生活する知的障害者の住宅です。「スタートもみじ」は5名、「スタートあおば」は4名の方々が生活しています。入所するには、一部生活費の負担が必要で、地域に住む専任の世話人が生活援助しています。

また、「ハビリポート若葉」では、グループホームばかりではなく、ショートステイなどで、地域生活者の支援をしています。

ハビリポート 「社会に向けて旅立つ港」

「ハビリポート若葉」は、ノーマライゼーションの理念を実現させるため、様々な工夫をし、社会への適応力を養う環境作りに努めています。生活の質の向上、更生訓練の充実等、施設本来の機能を踏まえながら、地域社会に広く開かれた施設を目指しています。

居室についてはプライバシーを尊重される自分自身の時間を持つことが大切であると考え1人部屋138室、2人部屋39室、4人部屋2室とそのほとんどを個室としました。これは、何よりも、生活の場として、質の高い

生活環境を提供したいと願ったからです。同様の考えから住居部分を5〜6室ごとの小グループに分け、中にテレビ視聴などできる居間を作り家庭的雰囲気のあるものになりました。

また利用者の自立と社会復帰を目指すため、専門的な指導および訓練を推進しています。施設内では、利用者それぞれの能力に応じた作業（農耕・園芸・鳥骨鶏飼育・軽作業・和紙マット製造・ウエス加工）に一生懸命取り組みんでいます。



自然いっぱい! 笑顔いっぱい!



12月 年忘れ会



12月 餅つき大会



11月 フェスタハビリ



10月 旅行



7月 盆踊り



6月 園祭



ハビリポート若葉では、この様に季節感あふれる行事を行うことにより、人と人とのふれあいを大切にしています。また、集団生活のマナーを学ぶ場としてとても重要な役割を持っています。

3月、一年の労をねぎらい、利用者同士のさらなる親睦を深めるために、温泉に出かけたりして、茶話会を行います。

2月、豆まきでは、職員扮するオニに向かって豆をまき、福の訪れを願います。

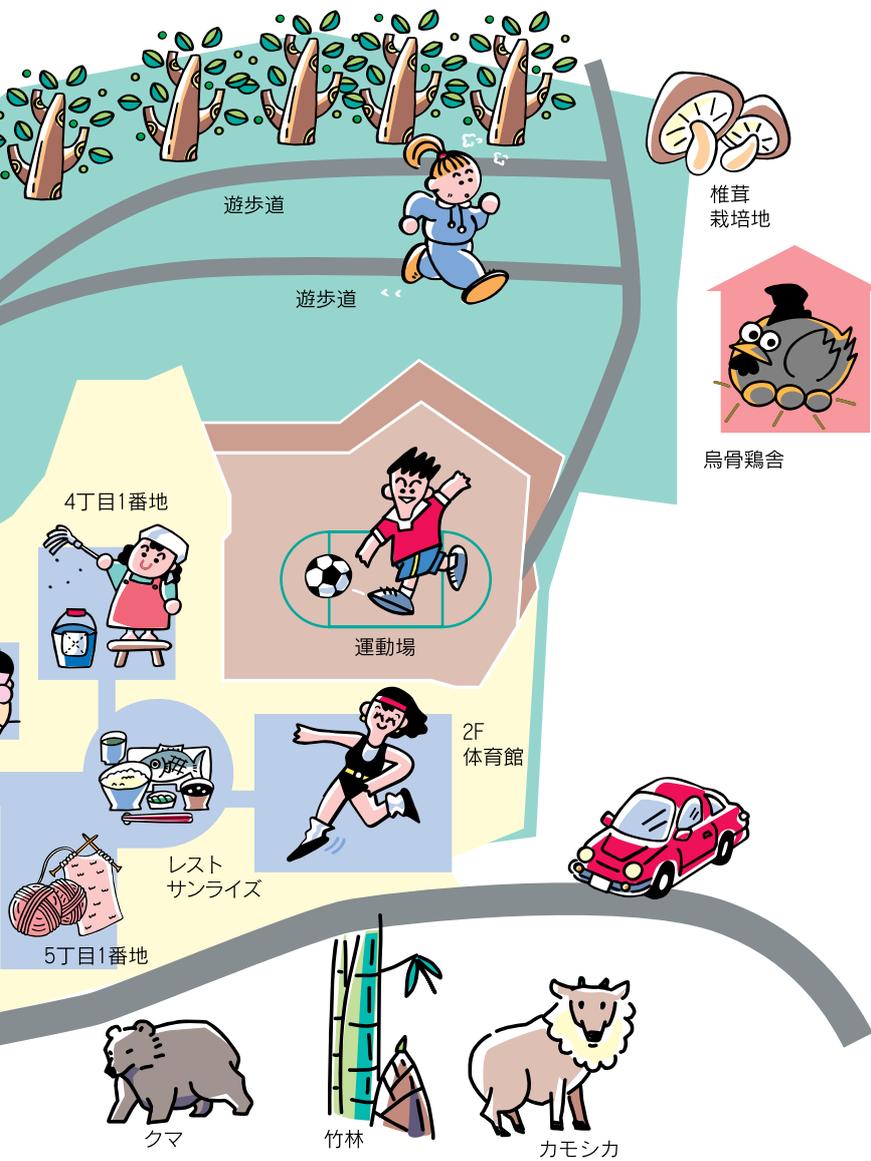
1月、各丁で新年会を行います。皆でごちそうを囲み、ゲーム等をして楽しいひとときを過ごします。

12月、年忘れ会では、カラオケをしたり、お正月用のおもちをついたり、皆それぞれに一年を振り返ります。

11月、フェスタハビリでは、各作業班で作った野菜やハーブ、和紙はがき等を販売したり、焼きそばや焼き鳥等の屋台が出店したりとお祭り気分を満喫します。また、ゲームコーナーが設けられたり、カラオケ大会が開かれたりと、楽しいイベント満載です。

10月、秋の旅行は、普段外に出る機会の少ない利用者にとって何よりの楽しみとなっています。遠くは北海道、沖縄まで利用者の希望にそった場所へ行きます。

チーム一丸となって優勝目指して競い合います。



1月 新年会



1月 新年会



2月 豆まき



5月 たけのこ祭り



4月 花見

楽しい年間行事

ハビリポート若葉では、年間を通じた様々な行事が行われています。

春、桜が咲く頃になれば花見に行きます。各丁それぞれ計画を立て、兼六園や犀川周辺等、桜の名所へ出かけ、満開に咲いた桜を満喫します。桜を見ながらのお弁当もまた格別です。

5月、たけのこ祭りでは、地元の特産である旬のたけのこを使った様々な料理が振る舞われます。たけのこにちなんだゲームや劇等もあり、たけのこづくしの一日です。

6月、陽風園毎年恒例の園祭が行われます。ご家族の方も来園し、利用者と模擬店を巡り楽しいひとときを過ごします。

7月、盆踊りでは、色とりどりの浴衣に身を包んだ利用者の方々が、星空のもと、元気に踊ります。

9月、秋空もさわやかな好季節、施設に隣設された運動場にて運動会が行われます。全丁混合でチーム分けをし、

「販売活動」

一人でも多くの方に、当施設の商品を知ってもらいたい。また、少しでも多くの収益をあげるために、セルフフェア、バザー、各種行事等に参加しています。また、地域住民との交流を図るため、クッキー教室も実施しています。



クッキー教室

働く喜びを応援したい。

あかるく 清潔な環境のもと
けんこうで 安定した生活習慣のもと
ほがらかで
のびのびと

能力に適した作業指導により、社会生活に適応できる知識、技能を身につけ、働く機会を応援したいと頑張っています。



軽作業 重度から軽度まで、さまざまな障害にあわせた作業に取り組んでいます。



焼菓子 “手作り”どれもこれも愛情たっぷり。手間ひまかけて作った自信作です。



漬物 研究に研究を重ね、やっと当施設の味を作り出すことができました。

あけぼの作業所



平成8年4月1日に「社会就労センターあけぼの作業所」が誕生しました。いわゆる「福祉的就労の場」として、知的に障害を持った方々がこの施設で協同して製品づくりや、請け負い作業を行い収入を得ながら社会復帰を目指す場であります。

開設は30名定員でスタートし、ようやく軌道に乗りかけた時期でしたが、まだまだ利用希望の方々が多いという状況に少しでも応えるべく、今年度(平成10年度)から定員を7名増やし37名定員と増員しました。全国的にも、まだまだ社会就労センターの需要は高いようです。

通所の作業所であり、就労の傍ら、作業を通じての作業指導・生活指導など家族の方々と連携を保ちながら行っております。利用者は養護学校卒業生・職業訓練校出身者、さらには一般就労からリタイアした人などさまざまですが、社会的自立から一般就労まで、それぞれ目標を掲げ、それらが作業を通じて達成されるよう取り組んでおります。

高度な医療設備と、 心のケアを中心に。

診療所は、各施設に入所されている人を対象とし、ベッド数は19床です。

標ぼう科名は内科で、所長をはじめ、金沢大学附属病院および、金沢医科大学病院の医師が診察にあたっているほか、看護婦6名、寮母3名、レントゲン技師、薬剤士、および事務員の15名で、患者一人ひとりのニーズに応え、24時間完全看護の体制で、緊急時にも対応できるように医療の万全を期しております。

また、医療機器の整備等についても、超音波診断装置を設置するほか、心電テレメータ送信機、集中酸素等、治療に必要な機材も完備しており、高度な医療のもとに、患者の皆さんが安心して療養に専念できる診療所です。

その他、週二回の入浴介助、食事介助等、いつも患者の立場に立つて、心のケアを中心にアットホームな看護が出来るよう、スタッフ一人ひとりが、愛情をもって患者に接し、福祉施設に併設された医療機関として、福祉の心を忘れることなく、必要な医療が提供できるように努めており、患者の人格・人権を尊重し、適切な治療とともに、自立への援助に力を尽くしています。



陽風園診療所

陽風園お年寄り介護相談センター

24時間体制で、 各種ご相談に応じています。

一般に、在宅介護支援センターと呼ばれておりますが、金沢市では、親しみやすく、わかりやすいということで、お年寄り介護相談センターと呼んでおります。設置条件は、24時間体制のため、特別養護老人ホームや、老人保健施設、病院等に併設されることになってお

ります。

目的は、地域の要援護老人の心身の状況、家族の状況等の実態を把握すると共に、介護ニーズの評価を行うこと。また、在宅介護に関する各種の相談に対し、電話や、面接等で総合的に応じております。一方、要介護老人を抱える家族からや、民生



委員から連絡を受けた場合、実際に訪問して、在宅介護の方法や、助言も行っております。

また公的福祉サービスの利用申請手続きや、代行なども行い便宜を図っております。

福祉用具の展示、福祉用具の紹介、選定および使用方法についても説明させて頂いております。高齢者の方が在宅生活が行いやすいように住宅改造に関する相談、助言など、利用者と家族の両面のご支援を致しております。

主な業務内容

- ◆在宅介護に関する相談
- ◆保健福祉サービス（ホームヘルパー、デイサービス、入浴サービス等）の利用申請手続きの受付代行および調整
- ◆介護用品の展示、紹介、使用方法などの説明
- ◆高齢者向け住宅の増改築に関する相談および申請手続き
- ◆地域の実態把握

- センターは、夜間の緊急時にも対応できるよう、特別養護老人ホーム万陽苑に併設されており24時間体制で支援活動を行っています。

- 病院のソーシャルワーカー
- 民生委員、福祉活動推進委員等の相談協力員の方々と連携し、相談にあたっています。



夢に向かって



21世紀に向けて
将来をともに考える。

創立百二十五周年にあたって

石川県厚生部長 藤井 充



社会福祉法人陽風園は、明治六年に故小野太三郎氏が私費を投じ窮民等の救済にあたられてからはや、百二十五年の歳月が経過したわけであります。この間、明治、大正、昭和、平成とめまぐるしく変遷する時代の中であって、これまで社会の多様な福祉ニーズに応えられ、本県の社会福祉の向上に果たされてきた役割は、今更申し上げるまでもなく、極めて大きいものがあり、ここに改めて深甚の感謝と敬意を表するものであります。

さて、ご承知のように我が国は、少子・高齢化の一層の進展、核家族化や女性の社会進出による家庭機能の変化、住民ニーズの多様化などにより福祉をめぐる構造的な変化に直面し、新しい社会保障体制の再構築が求められています。

このため、現在、国では「自己実現と社会的公正」を社会福祉の理念として、社会福祉事業の抜本の見直しに向けた検討を行っているところであります。

しかしながら、制度の改正もさることながら、福祉はある意味では経験の積み重ねであるとともに、福祉を支える人材に よるところが大であります。そういった意味で、陽風園が一世紀余の間、変遷する幾多の福祉のニーズに応える柔軟性・先見性をもつように努め、これらを支えてこられた多様な立場のスタッフを擁し、地域の住民と連携し社会福祉の発展に貢献されてきた実績は、非常に心強いものであります。

福祉が社会において果たすべき役割はますます大きなものとなっております。県といたしましては、創意工夫を積み重ねながら、あらゆる分野における障壁のない社会づくりを念頭に、県民だれもが希望を持つことができる石川型福祉社会の構築に取り組んでいるところであります。

今後、社会福祉に対するニーズはますます多様化・高度化してきます。社会福祉法人陽風園におかれましては、これまでの実践で培われた優れた実績のもと、人権を基底とした利用者本意の福祉サービスを提供され、本県の社会福祉の発展に寄与されるとともに、大いに飛躍されんことを期待いたしております。

将来の陽風園へ、福祉の仕事を考える

厚生省社会・援護局施設人材課長 河 幹夫



戦後まもなくの昭和二十二年、田村泰次郎の「肉体の門」が大ベストセラーになる。田村はこう語る。「私は民族を戦争の惨禍から救うことになんどの力の足しにもならなかったような『思想』は、いまではちっとも信用していない。……私はこの戦争の期間を通じて、肉体を忘れた『思想』が、正常な軌道を踏みはずしたような民族の動きに対して、なんの抑制も、抵抗もなし得なかったのを見た。」

皮肉なことに、福祉の世界では、この「肉体を忘れた思想」が四半世紀ばかり後に流行することになる。昭和四十五年、私は大学に進学する。当時、いわゆる大学闘争の余震が大学を覆い、障害者福祉のサークルはイデオロギ―対立から分裂の時代を迎えていた。その中で感じたことは、「どのような主義であろうとも、弱者の生活の基盤を壊す思想は批判されるべきだ。」

話を戦後時に戻す。田村の「肉体の哲学」に対し、漫画家の近藤日出造は激しい批判をする。「人間を畜生化することにきゅうきゅうとしている破廉恥演劇人たち、そしてそうしたものをポカンと口を開けて眺めている愚衆共の残忍性、嗜虐性こそ、濟度し難き封建そのものだと思ふ」。何やら現代の世相にも通じるものがありそうである。

そうなのである。福祉の仕事は日常でありながら、常に理想を追うものでなければならぬ。その意味では、福祉の仕事に「思想」が求められることも間違いがない。阿部志郎氏は「福祉の哲学（誠信書房、一九九七年）の中で次のように言う。二人ひとりの人間が根づいた風土の上にこそ、新しい福祉の体系は築かれなければならない」と。

陽風園の百二十五周年を心からお慶び申し上げます。安田隆明理事長の下、見事に再生を遂げられた姿を率直に美しいと思います。これから新しい世紀に向けて、金沢の地に新しい福祉の体系を築いていかれますように、心よりお祈り申し上げます。



FORUM

夢語り合い、伝えたい。
生き生きフォーラム

陽風園の将来に期待する

金沢市福祉保健部長 金子 衛



創立百二十五周年をお迎えになりますことを心からお喜び申し上げます。

陽風園が創始された明治六年は、わが国が幕藩体制に終止符を打ち維新を迎える中で、大変混乱していた時でありました。このような時代にあつて、小野太三郎先生が先駆けて弱い立場の方を支援する福祉事業を始められましたことは、きわめて先見性のある取り組みであつたと思います。

現在は、高齢者福祉施設、救護施設、精神薄弱者施設において、一〇四〇名のお年寄りや障害のある方等のお世話をお願いしておりますほか、近年は、在宅のお年寄りを支援するデイサービス、ショートステイ、ホームヘルプサービス等の在宅福祉サービスにも力を注いで戴いております。

この節目の年に当たり、陽風園が歩んでこられた足跡を振り返り、また、今日、果たしておられる社会的役割の大きさを考えます時、多くの皆様の不断の努力、あまたの苦難を乗り越えてこられた知恵と情熱に、改めて感謝申し上げますと存じます。

さて、西暦二〇〇〇年から介護保険制度が導入されることが決まつており、これまでの措置制度に代わつて保険方式による介護サービスの展開が現実のものとなろうとしています。また、民間事業者の介護サービス事業への参入ということも既に始まつており、わが国の福祉制度は、今、大きな転換期を迎えています。

しかし、このような福祉改革の流れの中にあつて、制度がどのように変わらうとも、陽風園百二十五年の歴史の中に培われた福祉にかける思いは、現在から未来へと、皆様の心の中に営々として受け継がれていくものと信じます。そして、そのお気持ちがある限り、金沢の陽風園として福祉事業の先頭に立たれ、本市の福祉の歴史に新たな頁を積み重ねて行かれることをご期待申し上げます。

生き生きフォーラム

◆参加者の紹介◆

- 八木 晶子 (向陽苑)
- 中村二三代 (万陽苑)
- 高峯 宣英 (第二万陽苑)
- 松山 智子 (第三万陽苑)
- 川守 佳世 (三陽ホーム)
- 土田 真子 (ハビリポート若葉)
- 吉田 貴之 (あけぼの作業所)
- 橋爪真奈美 (陽風園お年寄り介護相談センター)
- 司会
絹川 克之 (総務課)
- オブザーバー
安達久理子 (第三万陽苑)

に、「あれ？居たっけ。ああ居た居た。」
 って思われるのは嫌。確かにそこに居た
 という存在感を出したい。だからいつも
 「居た」って強いインパクトを与えよう
 と思ってる。仕事でも、「指導員さんって
 呼ばれるんじゃないかって「高峯さん」って呼
 んでもらったほうが覚えてもらったこと
 になる。

なあ。
八木 新しいことに挑戦したい。と言
 っても飽き性なんです、私。(笑)
土田 私は先のこととは考えず、その日
 その日を大切に、楽しく過ごしたい。
川守 「意表をついた人生」っていうの
 が私のテーマなんです。(笑)
 ただ仕事をしてお給料をもらうんじゃない
 くて、何かをするためにもらいたいとい
 うか：
 私は、今だったら、お琴に遣う。
 でも、お琴をしているっていつても、は
 た目にはそんな風に見えないだろうな
 あ。(笑)

3 夢と現実

絹川 自分の持っている夢や理想につ

いて自由に話してもらいたいなー。
中村 私のいる万陽苑の定員は190名な
 んですが、それに対して寮母は約50名な
 んです。他の施設は50床とか30床とかで、
 全員の名前と姿を覚えられ、その人に
 関わる濃度っていうのが190名と50名では

違う訳ですよ。
 だから私の夢としては、小さいグループ
 ホームを創りたい。アパートを貸し切って、
 自立できる人と痴呆の人とこつちやに
 なった10人足らずの、一緒に考えを持っ
 た仲間たちが集まった家庭…。そこには

「夢はグループホームを創ること。」 (中村二三代・万陽苑) (勤続年数4年6カ月)



犬もいるし猫もいる…。本当に自分たち
 で住んでいるっていう…。夢は夢です
 けども。
橋爪 私は去年まで第三万陽苑にい
 て、今は在宅の方のところへ訪問に行か
 せてもらっています。施設で関わったお年

寄りと在宅で関わるお年寄りの違いって
 いうのは、はつきり「これだ」とは言えな
 いけれど、やはり何か違うなって感じる
 ものはあるんです。生き生きとしたもの
 とか…。
 本園にも、売店とか交流の場とかもある



良いところをもつともつと知ってもらいたい。それを伝えていくのは自分たちだと思う。

1 仕事についたきっかけ

絹川 まず最初に、この仕事についたきっかけを教えてくださいませんか？

八木 高校生の時に体験ボランティアをして寮母さんが楽しそうにお年寄りに接していることや、お年寄りに「ありがとう。」って言われたことが忘れられなくてこの仕事につきたいと思いました。

土田 私もボランティアの経験からこうと思ったんです。あと祖母の介護もきっかけです。

中村 こういふ仕事につきたいと子供の頃から思っていたので、介護福祉士の取得できる専門学校に入り今の仕事に

つきました。

高峯 児童関係が希望だったので、が、たまたま老人ホームに行く機会があつて訪問しているうちに「老人ホームもいいかな」って思つて…。

松山 ずっと幼稚園の先生になりたくて、短大も保育科を専攻しました。でも実習をしてみても自分には合わないと思ひ断念。その後いろんなところにボランティアに行きました。友人のお母さんがデイスーパーで働いていたこともあり、そこで実習をさせてもらい「これだ」と思ひ、この仕事につきました。

吉田 中学校の時にボランティア活動が学校の行事になっていたのですが、今

思えばそれが印象に残つていて、この道に入るきっかけになったのかな…。

橋爪 私が入ったのが福祉系の学校で、ボランティア実習の経験から、児童関係、特に、障害児関係に進みたいと思つていました。でも、タイピングが合わなくて…。卒業後、地元に戻り一年目は事務系の仕事につきました。私は福祉シヨップの担当で、三陽ホームとあけぼの作業所の皆さんが作ったものを販売し

ていました。このことを通して陽風園のいろんな面を知ることになり、ちょうど求人があつたので応募し、この仕事につきました。

川守 就職活動の流れで…決めました。

2 私はこういう風に…いききたい。

高峯 せっかくこうして集まったとき

「『意表をついた人生』というのが私のテーマ」

(川守 佳世・三陽ホーム) (勤続年数3年6カ月)



『井の中の蛙』じゃいけないなあと思って思っています。」

（橋爪真奈美・陽風園お年寄り介護相談センター）（勤続年数1年3カ月）



れのお年寄り達には知るよしもなく、あの「小野慈善院」と呼ばれていた頃のままの、暗いイメージがいまだに根強く残っているんです。私達や、園の近くに住むデイサービスの利用者・施設の入居者にとっては、開放的で開かれた明るいイメージだと思っていた陽風園も、一方で、まだこんな風に認識されているんです。ですから在宅訪問活動を通じて、また、地域の方々がデイサービスに通い、私たちに接することで、本当の園の姿を理解してもらうためにも、私たち一人一人のケアの仕方の一つにも大きな責任を感じています。良いイメージにするも、悪いイメージにするも、それは私達の振る舞いで決まってしまうんですから。

4 新しいイメージ作り

「自分の仕事を胸を張ってやっていたと言えらるるよう」

（土田 真子・ハビリポート若葉）

（勤続年数3年6カ月）



絹川 陽風園には、そういった過去の暗いイメージもありますね。そういうイメージを払拭するためにも、今の良いところを積極的にアピールし、イメージチェンジした新しい陽風園の姿を知ってもらいたいね。

「陽風園はこんなに良い所だよ」という、そんな意見はないかな？ここ、立地条件はいいんじゃない？

川守 うん、いいね。コンビニも24時間やってるし。

橋爪 場所の説明もしやすいしね。

絹川 まあ、それはいいんですけど、陽風園のイメージアップという面から、何かないですか？

橋爪 大きい施設だから、一口にイメージアップと言っても、難しいですね。

絹川 じゃあ、これからの陽風園に望むことというふうなテーマを広げて

考えてみましょうか。

中村 新しいことが出来ればいいな。

川守 そう。スムーズに意見が通るような組織になればいいですね。楽しいアイデアとか奇抜な、意表をついたアイデアが…。やはり、他の施設と違う、独自のアピールできるものが欲しいですからね。

橋爪 今回のような機会に、園の中でもめったに話すことのないメンバーがいるいろと語り合うだけでも、一歩前進で、いいことですよ。

川守 毎年あればいいね。

絹川 色々とお個々のアイデアをのびのびと出し合って、それを仕事に生かしていける職場作りを目指してね。

川守 うん、それは必要よ。

「私たちが安心して

仕事ができる職場であってほしい。」

（松山 智子・第三万陽苑）（勤続年数1年6カ月）



絹川 中にはダメだよって言う人もいるだろうけど、いい意見はいつて素直に認めあえる職場にしたいですよ。

川守 いろんな特色がある施設ってあるじゃないですか。痴呆老人でも、地域のなかで自然に受け入れられているし、街中を歩いても近所の方がちゃんと見守ってくれているみたい。町ぐるみで施設と関わってくれている施設とかね。いつでもボランティアで訪れる小学生が絶えないとか…。

考えたら、色々出てくるよね。素敵なアイデアが。私たちが真剣に考えれば、実現できるいろんな方法もありますね。

絹川 そうですね。これからはもっとみんなで話し合う機会を増やし、積極的に取り組んでいきたいですね。

話は変わりますが、最近増えてきた寮夫さんについて聞かせてください。今ではどの施設にもいるようですが…。

松山 寮夫さんって、女性の入浴の

介助もするのかな？

絹川 私は寮夫の経験がありますが、しましたよ。

川守 私は以前、研修で寮母と寮夫

の人数が半々の施設へ行ったのですが、そこでは女性は寮母さんが、男性は寮夫さんが介助にあたっていましたよ。

絹川 男性は、女性の身体を洗うことにはやっぱり抵抗がありますからね。でも、男性の介護職員は増えてますから、それも言ってもらえないと思えますよ。

川守 だけど、ここにはいませんよね。

「新しいことに挑戦したい。
と言っても飽き性なんです、私。」

(八木 晶子・向陽苑) (勤続年数2年6カ月)



し、ボランティアとか地域の人たちとの関わりもあります。でも、「これが本来、お年寄りが求めている生活のスタイルなのかな?」って考えさせられてしまいます。いつも訪問に出掛けると感じるんですけど、一人一人お年寄りは全然違うんですよ。それぞれご家族の思いや、お年寄りの立場などがあるから当然ですけど。だから、園での皆同じ環境っていうことに不自然さを感じるんです。そういった点からも、グループホームなら個々のお年寄りの生活のリズムをもっと大切にすることもできるし、もちろん家族みたいな関わりも、より深まると思うんです。

そういうことを常に考えていると、現状に満足できないところがいっぱい見えてきて、「これでいいのかな」という思いはどんどん膨らんできてしまいます。また、訪問に行った先では、教えられることがいっぱいあつて、自分の未熟さを痛感し、「井の中の蛙」じゃいけないなあーとつくづく思います。

絹川 なるほだね。

中村 「昔は良かった、昔は良かった」と言ってる人もいますよ。

確かに今は施設が提供するサービスも増えてきました。在宅サービスとか…。昔と比べたら今の方が機材もすごく豊富で、寮母さんの数も多い。でも、それがお年寄りの方にとって本当にいい事なのかなって考えちゃう。…やっぱり、豊かさだけじゃあないんですよ。

橋爪 陽風園のイメージについて言いたいんですが、私は4月から在宅訪問に出掛けるようになり、陽風園に対して

まだまだ理解されていない面があるという現状を痛感しました。

訪問先で「陽風園の相談センターから来ました。」と言うと、「なんで陽風園がくるんや?」「うちでは、市役所にデイサービスとか訪問入浴の申し込みをしたのに、なんで陽風園の人が来るんや?」などと言われ、何だか悲しくなつて…。事情を説明して、その方のご相談に応じ、全て終えて帰るときになつて「あー、こういうことやつたんか」と、やつとご理解・ご納得いただけなんですよね。

陽風園の歩んできた百二十五年という時の流れの中の大きな変遷も、明治生ま

「もっとライフに生きたいなあ。」

(吉田 貴之・あけぼの作業所)

(勤続年数4年6カ月)



な。一人ひとりが「私を変えていく。」と自覚していけば。

絹川 頼もしい意見だね。

中村 そのためには、リーダー的な存在がいたほうがいいな。もちろん、頼るんじゃないわよ。

勢いついでに言っちゃうけど、職員のための託児所ができたらいと思います。(女子全員賛成) 出産してからも女性が安心して働ける職場になって欲しいです。

土田 ただ話してるだけじゃだめよね。実現に向けてみんなが一緒に考えていかなくちゃ。将来、胸を張って「私はやりきった!」と言えるように頑張っていきたいと思います。

八木 私は、専門学校にいた時には実習などでいろいろな施設を見たり聞いたりできたのですが、陽風園全体のことについては知る機会がなかったので、今日は大変勉強になりました。お年寄りが安心して暮らせることはもちろん、私たち職員も安心して仕事ができる環境づくりにもみんなで協力し合っていきたいと思います。

絹川 積極的な意見がいっぱい出てきて非常に心強く思います。これから私たちが立ち向かっていかなければならない問題は山積みだと思えます。でも、今日ここに集まって語り合ったことを各々の胸に深くとどめ、一つ一つ乗り



越えていきましょう。百二十五周年を迎えて発行する記念誌にふさわしい、生き生きとしたフォーラムになりました。本日はありがとうございました。

絹川 逆に、指導員では、女性が増えてきているね。

川守 男性指導員と女性指導員では、やっぱり仕事内容に違いがあるんですか。

土田 違うよね。

吉田 そう。違ってる。男性指導員は事務的なことが多いし、女性指導員はどうしても生活に関わることが多くなるからね。

絹川 陽風園では、ハビリポート若葉の指導員が、いちばん寮夫に近い仕事内容だと思うけど。

土田 そう思います。

絹川 本園の老人ホームの指導員は

事務的要素が強く、ハビリポート若葉の指導員は入居者側に近いって感じがするね。

安達 それぞれが単独施設ならまた違うと思いますが。

中村 私は第二万陽苑から万陽苑に異動で来たのですが、その時は気が重くて…。でも後で結構感謝したりするんですよ。だんだんその施設ならではの良さが見えてくるから。

同じ特別養護老人ホームなのに全然やり方が違うんですよ。一カ所にずっといると気付かないことも、異動することで良きにつけ悪きにつけ見えてくる

「伝えたいこと…それは自分です。」 (高峯 宣英・第二万陽苑) (勤続年数4年6カ月)

ものです。私は陽風園の全施設を回るべきだと思いますね。異動大賛成です。安達 でも気持ちの切り替えが大変ですね。

絹川 さて、時間も大分経過しました。それじゃ最後に一言ずつお願いします。陽風園の将来についても、自分の将来

についても結構です。

川守 世代を越えて、色々な意見やアイデアがのびのびと話し合え気持ちに触れ合えるようになればいいな。

橋爪 「あそこには、橋爪がいるから安心。」というように思ってもらえる、そんな存在感のある生き生きとした自分であり続けたいと思っています。福祉に携わる人間というよりも、共に生きていく一人の人間として。

吉田 今回は各施設から一人ずつ集



まってこれだけの意見がでたんだから、今度はおっと多くの人たちといるんな意見交換をしてお互いにプラスにしたいですね。

絹川 そうだね。

松山 私は、今はまだ、入居者に対して、自分の仕事のペースにあわせて関わり方しかできていないんです。入居者の生活リズムに職員が合わせていくことができない…正直言ってそれだけ仕事に余裕がないってことになりました。追われる仕事ではなく、相手が望んでいることにいち早く気付いてあげる余裕をもった仕事ができるようにならなくてはというのが私の目下の課題なんです。

絹川 仕事をしながらも、お年寄り達に話しかけたりしていつもお互いのコミュニケーションを取ることが大事ですね。細かな表情の変化にも気付いてあげる。言うは易しだけど、なかなか大変だね。

松山 はい。

高峯 私は、自分の意見はきちんと伝えるようにしなければと思っています。ともすれば、「私もそれでいいです。」って同調するだけで逃げている部分があるように思うから。

絹川 自分の言葉で発言？

高峯 「口にできないことには、何も伝わらない

ですから…。」

中村 現代は「無気力な若者の時代」などと言われていますが、こうして集まってみると、みんな活発に意見を出し合っただけで、なかなか盛り上がるものですね。こういう話し合いの場をもっと増やせたらいいのね。

若者が一致団結すれば、陽風園はもっともっと前向きになっていくんじゃないか





三陽ホーム
川守 佳世

フォーラムでは、主に現在の仕事について私が日頃考えていたことを話しました。自分の将来の在り方や、園の将来に向けてのビジョンについて語るのは、私にはちよつと照れくさいことです。

就職するまでの私の漠然としたテーマは、「人がアツと驚くような楽しい人生を目指そう！」といったようなものですが、今もその思いは変わりません。心の底から人生を楽しみたいのです。その実現のためなら、私は労力を惜しみません。いろんな趣味を持ち、身体を鍛え、オシャレにも気を配り、常に新しい情報をキャッチするためのアンテナをいろんな方向に張り巡らしていきたいのです。

二十年后にも、少なくとも今の勢いを持ち続けていることが、最低限の夢ですね。いろんなことに興味を持つことで、様々な価値観や考え方を吸収していきたいと思っています。目指すは『心のスポンジ』とでも言いましょうか…。



ハビリポート若葉
土田 真子

今回、このような会に参加させて頂き、どうもありがとうございました。私自身にとつて、とても良い機会となりました。

まず、日々の仕事を行うにあたって、他の施設の方も、私達と同じ事を考え、悩んでいるという事が分かりました。話し合いを行う事で、とても心強い気持ちになりました。

もう一つは、改めて自分自身のことについて考える機会となり、とても感謝しています。私は、今もこれからも、自分らしくいたいと考えています。そのために、時に我ままにもなつて自分の気持ちを大事にし、自分が良いと感じた事は自信を持って行い、継続出来るよう努力していきたいです。まず自分自身を大切にしよう心掛け、そして、周囲の方々と接する時一時一時を大切に、笑顔で過ごしていきたいです。今後もこのような会を是非継続していけたら良いと思います。



あけぼの作業所
吉田 貴之

今回私は、陽風園百二十五周年記念におけるフォーラムに参加させて頂いたとき、貴重な体験をさせて頂いていただいたことに、とても感謝しています。

フォーラムでは、入社五年未満という若い人達が集まったにも関わらず、一人ひとりが自分なりの意見をしっかりと持つことができている。その意見には、驚きや共感のできるものなどが様々感じられました。日頃から今回のフォーラムのように、各施設から集まって自分の意見や思いを素直に伝える場がないこともあり、ここで得られた意見は、とても新鮮に感じることができ、また、自分のあり方を新たに見つけることができ、とても貴重な体験をしたと感じました。そして、百二十五周年という歴史ある陽風園を支え、これから変わっていく福祉を支えていなければならない実感と、自分達が描いている理想の福祉を築いていくために、日々考えていかなければならないと感じました。



陽風園
お年寄り介護相談センター
橋爪真奈美

フォーラムに参加して、皆さんがそれぞれ、いろんな思いや考え、夢を持って仕事をしていることがよく分かり、とても勇気づけられました。「仕事のために…」と、頭の中は仕事のことではないというのではなく、仕事以外のことで何でもいから、好きなこと、打ち込めるもの、こうなりたい！と思えるものを、皆さん一人ひとり持っていたことがとても印象的でした。きっとそれが、ハードな仕事を続けていくためのバイタリティーの源につながっているのだと思いました。

百二十五周年を迎える今、長く積み重ねられてきた歴史の重さを感じるとともに、新たな福祉時代の到来に不安と期待を抱いています。高齢者も若者も、健康な方も障害をもつ方も、全ての人が自分というものを大切に、もつともつと己を主張できる社会にしていかなければいけないと思います。私も皆さんの一員として頑張りたいと思います。



向陽苑
八木 晶子

今回のフォーラムに参加し、日頃聞く事の出来ない、他の苑の方の話を聞くことができ、感心をしたり、共感したりと楽しい時間を過ごすことが出来ました。初めは、苑の代表で参加すると聞いていたため、人前で話しをする事が苦手な私は、すごく緊張し、へんな事を言ってしまったらどうしようかと、心配していたのですが、話しをしたり、聞いたりしていくうちに、楽に参加することが出来ました。今までの私は、新しい事に挑戦してみる事が好きで、毎日楽しく過ごしたいという事がばかり考えて来ました。それは私の将来の夢でもあります。ある意味で、陽風園の利用者に関しても、毎日楽しく過ごしたいという思いは、同じなのではないでしょうか。今後利用者にとつて楽しく元気に過ごせ、陽風園に来てよかつたと思えるような援助を心掛けてゆきたいと思えます。このような機会をいただきありがとうございます。



万陽苑
中村二三代

フォーラムに参加する前は、自分の考えや伝えたい事を上手く表現できるかとても不安でした。自分の職場や仕事内容について粗相のないように良いイメージだけを伝えようと意気込んでいましたが、実際は百点満点の職場はなく、不満や憤りを語る場合、皆さんと意気投合したのは言うまでもありません。陽風園の分野の異なる職場で働く皆さんと沢山の話を語り、聞き、印象に残ったことは、自分の職場に不満を感じつつも誇りに思っているということ。もちろん、私もです。私がかつた陽風園に夢を語るとするならば、託児所があれば良いと思います。陽風園に骨を埋める覚悟でいますが、育児となると現状では、専業主婦の心構えも必要かと思うのです。どうか検討のほど宜しくお願い致します。

フォーラムが私たちだけで打ち切られるのは残念に思います。二十一世紀を担う若者の集い「そんなフォーラムを第二回、第三回と続けてほしい、続けていくべきだと思えます。願うばかりです。



第二万陽苑
高峯 宣英

フォーラムに参加して、まず思ったことは、みんな一人ひとり、ちゃんと意見・考えを持っているのに、これまでこのような場(フォーラム)がないためお互いに伝えることができなかつたということです。

今回は普段、話をする機会がない職員ばかりが集まったこともあり非常に緊張もしました。でもこのような機会でもないと、四百十数名もいる陽風園の職員の中には、こういうひともある、ああいうひともあるんだということばかりありません。また、噂などで、あるひとのことを聞いても、実際には全く違っていたりすることもあるのです。ひとりひとり本当に知るには、じかに顔をあわせて話してみないとわからないわけです。そう考えてみると今回のフォーラムの意義は大きかつたのではないのでしょうか。

そんな有意義な意見交換の場ではありましたが、ひとつ問題点を上げるなら、議題が「気楽に伝えたいことを話そう」ということでしたが、場の雰囲気(カメラなど)に不慣れということもあり、あまり落ち着けなかつたことです。



第三万陽苑
松山 智子

とても勉強になりました。この一言につきます。勤続年数も違い、しかも初対面でそれぞれの意見を述べあう…。最初は何を話せばいいのかとても不安でしたが、時間が過ぎるうちに、人の意見に「わかるわかる。」と同意し、「そうなのか。」と納得し、とても有意義な場となりました。

私は、特に専門的な勉強をしてきたわけではないので、仕事をするその日その日が勉強の場であり、学びの場でもありました。だから「こういう介護をしていきたい」といった思いがはつきりとはなかつたようです。でも、一年たつた今では、うまく言葉にはできないけれど「こういう介護をしていけたらなあ」という思いは確かに持っています。そんな時、このフォーラムに参加する機会を得て、他の人の話を聞くことができたことは私にとって大変プラスになりました。フォーラムでは私の思いをうまく言い表わせなかつたという反省すべき点がありますが、自分の中では十分満足感で満たされたものでした。次の機会があれば、また参加したい気持ちでいっぱいです。そのときには自分の気持ちも十分に伝えることができるようになっていきたいと思います。



北村 友正

小野太三郎さんが障害を持っていたり、貧しくて生活に困っている人のために、自らの生活を投げ打ってその救済をはじめたのが、明治六年ということで、明治維新、廃藩置県という日本の歴史上の一大転機を経た、まさに激動の時代でした。その後幾多の社会変動を経験しつつ、時代の要請に応えるなかで、今日、全国的にも有数の福祉施設として、石川県、金沢市の福祉事業の主要な一翼を担い、創立百二十五周年を迎えることができたことは、誠に慶賀に絶えません。しかし、来たるべき二十一世紀は、高齢者の世紀といわれており、要介護高齢者の問題が大きくクローズアップされてきました。長期に亘る構造不況のなかで、金融ビッグバンが実施され、社会保障構造改革が論議されています。介護保険制度も始まろうとしております。

新たな激動の時代を迎え、陽風園のますますの飛躍を期待しております。

前河原他喜於

幕政からの一大転換をした明治初年、福祉政策らしきものもなく、多くの住民は、貧困との戦いで、死と対決しなければならぬ状況にあった。この様な時に、小野太三郎さんが、私財を投じて救貧対策に乗り出されたのが、百二十五年前という、園の起源である。一世紀以上の長い歴史を持つだけに、戦後我が国の福祉行政の先駆的役割を果たしてきた。歴史が古いだけに、一般市民から、小野慈善院時代の認識（救貧対策…）が抜けず、園運営の大きな障害となっていた。そこで法人名から、「小野」が抜かれた。しかし、「歴史も古く、建物も古く」では、イメージチェンジできないから、園の施設整備を計画したが、何分にも多くの大きな施設を抱える園の改善は、簡単には進まなかつたのである。

幸いにして、安田隆明先生を理事長にお迎えしてから、懸案は急速に進展し、生まれ変わった園として、百二十五周年を迎えることが出来たことは、誠に喜ばしい限りである。



嵯峨 逸平

陽風園創立百二十五周年おめでとうございます。安田理事長さんをはじめ関係者のご尽力は並々ならぬものがあつたのではないかと思います。私が理事として努めさせていただきまして二十年になりますが、その間に陽風園は、次々と老人、障害関係の施設を開設、整備され、石川県内の社会福祉施設の先駆的役割を担ってこられました。また、陽風園の長い歴史の中で築きあげた専門性を在宅の方々へ提供しようと地域福祉の拠点として職員の皆様が日々努力されておりますことは、大変喜ばしく思う次第であります。

安田理事長さんの福祉語録の中に「人はみな、心の中に福祉の心がある」とあります。役員職員の皆様が一丸となつて、末永く福祉の向上に貢献されますとともに、石川県における主導的役割を發揮していただき、陽風園がますます発展されますよう私も理事の一人として尽力させて頂くことをお約束し、お祝いの言葉とさせていただきます。

金原 博

私は若い頃から選挙が好きで学校を卒業して間もない頃、もう金沢市長や代議士をされていた、井村重雄先生の青年部友の会幹事長でした。井村先生はその頃「陽風園」の理事長で、よく私達に園祖小野太三郎は偉い人だと話していました。「小野太三郎翁伝」の序文に陽風園理事長だった井村重雄が次の様に書いています。明治六年という昔、自らの衣食を節し、自らの家を開放し、その全生涯を困窮者の救済に捧げた翁の慈悲心と偉績はまことに凄い…。

殆ど公のお金で社会福祉事業が行われているこの頃、創立百二十五周年を迎え、小野太三郎翁の仁徳を想起して、私達は自らを厳しく律するべきであります。





奥 清

創立百二十五周年おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。慈善の道を歩み続けられ、尊きものを感じています。

孔子が、門人に語りかけた言葉に「吾が道は 一以て之を貫く」とございますが、居並ぶ門人たちは、この言葉の意が分からず戸惑っていますと、更に「夫子の道は 忠恕のみ」と教えられたと学んでいます。

「忠」とは「人の為に謀りて忠ならざるか」（為人謀而不忠子） 誠意を尽くすことであり「恕」とは「己の欲せざる所を人に施す勿れ」（己所不欲 勿施於人） 人の身の上を思いやることであります。両者を一体のものとして考えるならば、誠意に満ちた思いやりの心でございましょうか。」「吾が道は 一以て之を貫く」がんばって下さい。

創立百二十五周年をおよろこび申し上げます、更なるご発展をお祈り申し上げます。

細野 昇

園祖小野太三郎翁が福祉の原点とも言うべき救貧活動の道を歩んで以来、変革の時代を乗り越えながら時代時代に対応した福祉の道を一途に進んで百二十五年経過しました。

今日までの関係者の方々のご熱意とご苦勞に深く敬意と感謝を捧げます。

現在我が国では高齢化の波がひたひたと押し寄せ、最近の少子化とあいまって今後の福祉のあり方について適切な検討が求められています。また介護保険制度導入も近く迫っており、福祉施設の確保充実と介護する人材の確保は緊急の課題であります。

新しい時代の福祉に対応するため、本園でも第三万陽苑・ハビリポート若葉の新設移転および既施設の大規模改良、また職員の資質向上のための方策等、理事長を中心に職員一丸となつて着実に進めていることに心からの敬意を表したいと存じます。

陽風園が将来も福祉の拠点としての役割を果たされることを期待いたします。



福光 博

陽風園がこのたび創立百二十五周年を迎えられましたことは誠に慶ばしく、心よりお祝い申し上げます。わが国では、他の西欧諸国に例をみないスピードで人口構造の高齢化が進行しており、西暦二〇二五年には、国民の三分の一が六十五歳以上という割合で高齢者が存在する時代が到来すると予測されており、寝たきりや痴呆といった介護を必要とする高齢者が増加する一方、介護期間の長期化と支える家族の心身の負担が重くなってきたっており、老後問題は今やわが国が当面する最大の課題であります。陽風園の役割はさらに重要性を増していくものと思っております。創立百二十五周年という節目を迎えられ、その記念事業の一環として記念誌を発刊されることになり、これまでのあゆみをたどりながら、新たな一步を踏み出されんとされますことは誠に意義深いものがあり、これを契機として陽風園がますます発展させますことを祈念いたしましてお祝いのごことばといたします。

善 道

陽風園の歴史は、園の創始者故小野太三郎翁により金沢市中堀川町の自宅を窮民に提供して救済したことに始まったといわれるが、一八七三（明治六）年に新しく家屋一棟を購入し収容施設として救民を救済し始めた年を園の創立の年とし、それから数えて今年が丁度百二十五年に当たる。このたび、これを機に発行された記念誌は、園祖太三郎翁の慈善の心で設立された陽風園の今日に至る発展の歴史を知る貴重な資料として福祉の仕事に携わる者は勿論のこと、施設を利用される人にとっても必見に値するものと思われる。

現在の陽風園は、利用者千百名余を越える全国屈指の社会福祉施設として世に知られ、安田理事長を先頭に職員一丸となつて『陽風一家』の名のもとに、更なる飛躍をめざして努力を重ねられる姿は誠に頼もしき限りであります。この上は、利用者の幸せはもとより地域社会の福祉の拠点として、明るい福祉社会の構築に向け邁進されることを願って止みません。



八田 恒平



陽風園が、創立百二十五周年を迎えたということを、大変喜ばしく思います。私が、小野太郎翁の功績に感銘を受け、初めて監事をお引き受けしたのは、昭和三十五年ということで、もう三十八年前になります。当時は、社会的には高度成長の真つ只中ということであり、社会福祉の分野ではまだ老人福祉法が出来る前でした。その後の変遷を思い起こしてみれば、まさに隔世の感があります。

まだ木造だった施設が鉄筋コンクリートになり、別地に新しい施設もいくつか出来ました。より安全に、より住み易く願って、施設の改修も進んでいます。

石川県、金沢市の社会福祉の分野で、これまで先導的な役割を果たしてきた陽風園が、今後とも安田理事長を先頭にますますの発展を遂げ、社会的支援を必要としている人々のために、より一層力を尽くされることを期待しています。

西村 昭孝



社会福祉事業は、国が戦後から今日にかけて、政策の大きな柱として取り組み、老人福祉施設等も充実の一途を辿ってまいりました。

しかし、百二十五年前に溯りますと、文明開化の波が日本にひたひたと押し寄せ、明治政府が漸く日本の近代化に向けて歩み出した頃であり、社会福祉等のいわゆる弱者対策に手を差しのべる余力など全くない時代でありました。

そういう中で、先人が今日の陽風園の基礎を築かれたことは、一金沢だけの問題でなく日本の社会福祉事業の先き駆けとして、心しなければならぬことと思います。又、その志に思いをされ、今日に至る迄、関係者の皆さんが陽風園の一層の充実発展に尽くしてこられたことにも心から敬意を表したいと思います。

いずれにいたしましても、創立百二十五周年、本当にお目出度うございます。

(掲載は就任順)

加納 實



人間の優しさを考える 福祉の祖 小野太三郎の人生を通して
平成七年九月石川県で開催された全母子協創立四十五周年記念大会でボランティア大学鶴羽伸子校長が表記の題で講演された。太三郎氏二十四歳迄に大工等の技と救民管理法を学ぶ、その後の大飢饉さらに廃藩置県、家録処分で難民巷にあふれる中で私財を投じ次々購入した家に救済した。晩年卯辰山に小野慈善院さらに小児施設も増設、多数の人を収容した。
七十三歳の生涯で救済者、のべ一万人！埋葬者三百人に及ぶ。自らは節約粗衣をまとい、収容者には整った身なりをさせ、相手の人格を重んじ自立の技を教えた。他人を責めることなく慈悲心深く、人間の憂を背負って神の如く生きた人であったとの講話は参加者一同に多大の感銘をあたえた。本年は園創設百二十五周年！園祖の胸像も建立されるとか。慶賀の至りです。陽風園の更なるご繁栄を祈念いたします

浜田乙次郎



園祖小野太三郎さんが、慈善事業を始められてから百二十五周年を迎えました。
この記念すべき式典に参列させて頂き、園祖並びに園の発展に尽くされた先人に、心から敬意を表します。
この機会に、タイムスリップして先人の苦勞を偲びたいと思います。
一、現在地(二一、六四三㎡)の取得、建物整備八カ年計画(二〇、一一六㎡)の完成、見孫に美田を感謝します。
二、太平洋戦争当時の食糧確保(ズンベラ等の雑草食材、軍隊の残りの「干い飯」造り、供出米と偽つての米の搬入等)の苦勞を察すると共に、飽食の席に招き語りしたいと思います。
三、平成の整備基本計画(第三万陽苑、ハビリポート若葉及び園の環境整備)も、理事長の「先が無い急がなくては」の資金調達の奔走により、その完成が式典に間に合いました。
百二十五年は通過点、この先、社会の要請がある限り頑張ります。

(掲載は就任順)



森田 了栄

陽風園の創立百二十五周年を迎えて心から御祝い申し上げます。当園が一九六九年に陽風園と改称された。その以前石川が生んだ福祉の祖と云う小野先生を忘れてはならない。全国で一番古い社会福祉施設として発足してから今日まで何万人の人を救済して来た本園である。現在安田理事長を先頭に新しい時代の要請に応じて多くの人を収容出来る施設になりました。先人の意志を忘れず皆々様に共進して行きたいと思う所存です。



南 平吉

昭和二十六年に民生児童委員を委嘱された後で、郡の研修会に参加し小野陽風園を見学しました。その頃は今日の陽風園とちがって、建物も古く物質も豊かではなく、園の維持管理には大変な苦勞があると思われましたが、園祖小野太三郎翁の志を体して、皆さんが懸命に頑張っておられるのを拝見して、大変感動いたしました。翁の驥尾に付して社会福祉の向上に尽さねばならぬと思った私の原点は、この陽風園にあると思っております。



秋常 常吉

陽風園が今回創立百二十五周年記念を迎えられたことと共に園の施設が益々充実し社会福祉全般に強力に貢献して居られることを心からお祝い申し上げます。殊に理事長を始め現業役職員の方々のお努力を見聞するにつけて陽風園の今日の発展は実に順当な結果と感じて居ります。今年の記念を基として尚一層の御盡力に依り福祉の推進にと努められることを念願し評議員の一員として可能な限り協力いたしますことを申し上げます。



加藤 昭正

陽風園と私とのかかわりは、昭和五十八年の市福祉部担当時に第二万陽苑建設構想時からのおつきあいで、以後十五年の間に園内各施設の新設移築、増改築など、時代の変遷によるニーズにすばやく対応され、今や石川県内どころか全国でも有数の施設、内容とも優れた社会福祉法人と云えましよう。介護保険制度開始を二年後に控え、益々その役割も重要視される今、更なる発展をお祈りしてお祝いの辞といたします。



久木 吉次

創立百二十五周年お慶び申し上げます。顧みれば、慈善事業を指標に創立し、永い歴史の流れのなかで幾多の困難を克服し社会福祉施設として今日の陽風園を構築された諸先輩の先生方に心から感謝申し上げます。今や高齢化が加速し、介護を必要な高齢者等が増えています。また少子化に伴い、介護を支える家族機能の低下する現実をどう対応すべきか、貴園の使命は益々重要と思えます。益々この事業のご発展を心からご祈念申し上げます。



石野 治一

今日高齢社会が急速に進んでいる我々が健康で明るく安心する地域作りが必要であると共に現在は長寿社会の変化と共に歩み続け、でもしかし長寿を支える制度が追いつかない状態の中、この度陽風園では目前に百二十五周年を迎えるに当たり長い歴史を重ねつつ今日に至り、家庭に出来ない福祉介護の重大なお力に依りなお一層の準備を進めて頂かねばなりません。最後に思いやり心あふれる福祉の町金沢を積極的に皆さんと共に取り組む事を願います。



林 長作

石川県に福祉の火がともされてから早百二十五年。創立者の小野様の大きな愛の灯が後継者の努力と県民一体の協力でこんなに大きく大きく育ち今では日本一の施設として弱者の味方として育っています。私達もこの仕事で職員の皆さんと一緒に力を合わせ入所者が安心してくらせる大きな愛情を注ぎたいと想います。県民みなさんの絶大な応援と協力を得られるみなさんに信頼される施設に大きく発展するよう頑張ります。



辻野外美子

創立百二十五周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。創立者小野太三郎氏の崇高な精神を原点に明治、大正、昭和、平成の長い歴史をへて現在は誠実な安田理事長を中心に、すばらしい陽風園として世界に誇る施設となり数知れぬ人達の救済に盡くされた功績の偉大さを心からたたえたいと思う一人です。少子高齢化社会を迎え益々介護の重要な時、自立と、生き甲斐をめざし、あたたかな安らぎの施設として福祉の充実に邁進されることを祈ります。

記念誌の発刊によせて

評議員



石田 豊

昭和四十九年秋、鹿島郡鹿西町で県社会福祉大会が開かれたが、同年5月県社協会長に理事嵯峨逸平氏が就任されていた。この大会で、全国社会福祉協議会の見坊和雄事務局長が講演をされた。「金沢市の陽風園は日本一永い百年を経た養老施設で、又県社協嵯峨会長は四十八歳の全国一若い会長です。伝統と歴史と発展を重ねる施設と、昭和生れの県社協会長という体制は、正に全国に誇る福祉県の姿です。」あれから二十四年経ちました。



中村 正夫

創立百二十五周年を迎えられたいこと輝かしい足跡とともに心からお祝い申し上げます。私の記憶では県庁、社協を通して、四十七年の福祉生活の間、石川県の福祉についての原稿を何度か頼まれましたが、その特色は小野太三郎園祖が私財を投げ打って創始した陽風園であり、つまり民間社会福祉が先駆的役割を持つ本県福祉のリーダーとなってきたことをいつも誇りをもって書いて来ました。今後も創始の精神を堅持し発展していくことを祈ります。



清水 準一

鳥のさえずりと近隣寺院勤行の鐘音を聞き眼を覚まし、記念誌原稿の筆をとる。ふと、その先に評議員一人としての貢献有無につき自省すること暫しである。園運営の理念はトップその人の個人の人生観、哲学が生み出すものに左右されるかと思考するが理事長を先陣に職員一同、渾然一体となり長期計画を立案、企画し着実に具現化を図られる姿は美しいし、客観的に見て美すら感じる。福祉が微妙に揺れる時代である。将来へ躍進を期待して筆をおく。



涌波 秀博

私の生れは中堀川町の隣り町笠市です。小野太三郎翁の生誕地に近く祖父から話をきかされて来ました。戦後の国難に直面し経済の復興に努力を重ねて来ました。同じ堀川町に生を受けた村沢義二郎先生の新興仏教運動に入神し、吉田善堂師玄門寺教団が設立され梵声が発行。後に梵人会駅前支部長として十年間努力を重ねて来、後に民生委員を任命され、総務になって陽風園の評議員をさせて戴いております。小野太三郎翁の慈善の心に一步でも目指す事を誓います。



神保外巳雄

福祉の大先達小野太三郎翁が、慈善院を創設されてより百二十五周年誠に同慶の致りでございます。選別の福祉から普通の福祉へと変わって参りました。今では地域住民すべてが福祉の担い手であり又その恩恵を受けるべき時代です。慈善の理念を受けつぎ発展継承してこられた陽風園の関係者のご努力に深い敬意と感謝を捧げ福祉の総台施設としてこれからの地域福祉の中心となり益々発展されます事を心からお祈りいたします。



新谷 善治

昭和九年陽風園が私の家の近くに移転してきました。そして陽風園に幼年部があった頃は幼年部の子供達と、崎浦尋常高等小学校では友達として遊び、崎浦国民学校、崎浦中学校では教師として一緒に励んだ。今は崎浦地区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会の一員として、また、陽風園の評議員として陽風園の皆様のご指導、ご協力をいただいています。陽風園の皆様のご厚意に感謝申し上げます。



徳田 徳治

この度社会福祉法人陽風園の創立百二十五周年の記念誌を発刊され歴史の足跡を残されます事は、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

創立当時と、一世紀以上を過ぎた今日、又二十一世紀とぐんぐん高齢化社会が進んできて福祉機関に対する期待も大きく又社会の重大問題の一つだと思います。我が内川校下にも第三万陽苑、ハビリポート若葉、又近くの第二万陽苑と福祉施設がありますが、出来得る限りの協力をさせて頂きたいと思っております。



能登 稔

創立百二十五周年を心からお祝い申し上げます。

一粒の種が大地に降ろされ、双葉の芽を吹き幾多の風雪に耐え成長した巨木に現在の陽風園を見る思いがいたします。

慈善事業として発足した草創期の小野陽風園は、運営面での苦勞があったと思いますが現在は、全施設の施設整備も終え、目を見張るものがあります。福祉は大きな転換期にあります。今後の発展をご祈念いたします。



吉田 義雄

陽風園百二十五周年を迎えるにあたり一言感謝申し上げます。私共の子供の頃は今の陽風園を小野慈善院と呼んで身寄りのない子供に一人暮らし老人保護、うば捨山場所のような暗いイメージを持っていましたが、今では第二・第三万陽苑、ハビリポート若葉施設も新設され立派な福祉施設に生まれ変わりました。

一昨年天皇皇后両陛下がハビリポート若葉におい出になった時私共評議員全員で施設の入口に列んで両陛下をお迎えし安田隆明理事



飯田 実

一日一日の積み重ねが、歴史と伝統を築き上げてきた。そこには園祖小野太三郎翁を初め幾多の先達が額に汗水を流されてのご苦勞があったことを再考すべきでありましょう。

ここに百二十五周年という記念すべき節目の年を迎えるにあたり今陽風園に係わる者の一人として、この偉大なる資産並びに有為な人材を擁し、平成五年制定の私達の信条を旨とし「健康生きがい、そして安心」の実現にむけ、更なる躍進を望みたいものです。

長より両陛下に対し私共評議員を紹介されると天皇陛下よりご苦勞様ですとお言を頂き感無量でした。この想い出は一生忘れる事はありません。評議員で良かったと感謝いたして居ります。今後一増の努力をいたしたいと思っております。

記念誌の発刊によせて

評議員



河田 眞

陽風園が創立百二十五周年を迎えられて、記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く、心からお慶びを申し上げます。

明治初期に小野太郎翁の人間愛から出発した本園は、幾多の試練、変遷を経ながらも、常に我が国の先導的な役割を果たしてこられました。並々ならぬご努力に深く敬意を表します。

本園が、この永い歩みを顧みることによって、一層の発展を目指されんことを念願するものであります。



真館 和溥

陽風園が創立百二十五周年をむかえられましたことは本当におめでたいことであり、心からお祝いを申し上げます。

創始者・小野太郎氏の「慈善の心」を今に受け継ぎながら、陽風園を近代的な社会福祉施設として育てあげてこられた歴代理事長さんと職員の方々のご努力に深く敬意を表します。

歴史と伝統にさらに磨きをかけ、陽風園が一層発展されんことをお祈りしています。



松本 太多義

陽風園創立百二十五年お目出度うございます。戦前は金沢市三口新町一カ所だけだった。戦後我が国の経済生活医療の発達と共に人々の寿命も延び、男女共に世界一だとの事、其れに付けて老人、障害者等増加に依り、種々の福祉施設を建造されたのも理事長始め職員の方々の賜と思っております。又毎月充実した行事企画をされていられる様子を見て敬意を表します。

今後共増々のご発展をお祈りいたしてまいります。



青山 泰三

創立百二十五周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

この百二十五年の歴史の歩みの中では、時代の流れは諸々ありましたが、慈善の父と慕われた園祖小野太郎翁の心は大切に培われて、園の心となっておりです。

二十世紀とともに国の福祉制度も基本的な転換をなさうとしておりますが、「福祉は心なり」に思いを致し、皆様の変わらぬ活躍を念じましてお祝いの言葉といたします。

あとがき

社会福祉法人 陽風園は本年百二十五年という想像の時空を超えた輝かしい歴史を迎えることができました。永年の歳月を経て、園祖小野太三郎翁をはじめ歴代の理事長、職員によって幾多の福祉事業に関わる試練と苦難の道程を極め研鑽してきたものです。

昨今の福祉事情・動向の移り変わりは激しく、国(政府)では今、行政改革、財政構造改革、社会保障構造改革等、六つの改革を推し進めています。また、急速な少子高齢化、低成長経済への変化観測を背景に、年金、医療、福祉にかかる公的負担水準の検討が叫ばれています。福祉の分野では、『社会福祉事業のあり方に関する検討会報告』がなされ、改革が進められています。

一方で、高齢化社会に対応すべく、介護保険制度が平成十二年より導入され、老人医療事業に関して大幅な改革が求められ、高齢者介護が全ての国民のリスクとして背負うこととなります。

半世紀前に形作られた社会福祉事業の基礎制度に、二十一世紀を目前にして、大きなうねり、見直しが迫ってきています。

さて、昨今のそうした事情のなかで、二十一世紀に向かって、自信を持って言えること、思えること『あした晴れ』、決して今が曇りだから、晴れればいいなあという感覚的なものではなく、ストレートに『あした晴れ』と言える自信と姿勢を持った、自身自身でありたい。ということ、本編のテーマである『あした晴れ』が誕生しました。

記念誌編集小委員会

委員長

- 中川 義人(第三万陽苑)
- 田上 孝志(万陽苑)
- 末松 謙二(ハビリポート若葉)
- 上田 庸子(万陽苑)
- 沢田 貴恵(第二万陽苑)
- 安達久理子(第三万陽苑)
- 北岡 義和(三陽ホーム)
- 池永 安里(ハビリポート若葉)
- 桜松 一平(あけぼの作業所)
- 絹川 克之(総務課)

社会福祉法人 陽風園
創立百二十五周年記念誌

あした晴れ

発行日/平成十年十月十日
発行/社会福祉法人 陽風園
石川県金沢市三口新町一丁目八番一号
電話〇七六二六三二七二〇一

印刷/石川サニーマイト福祉工場

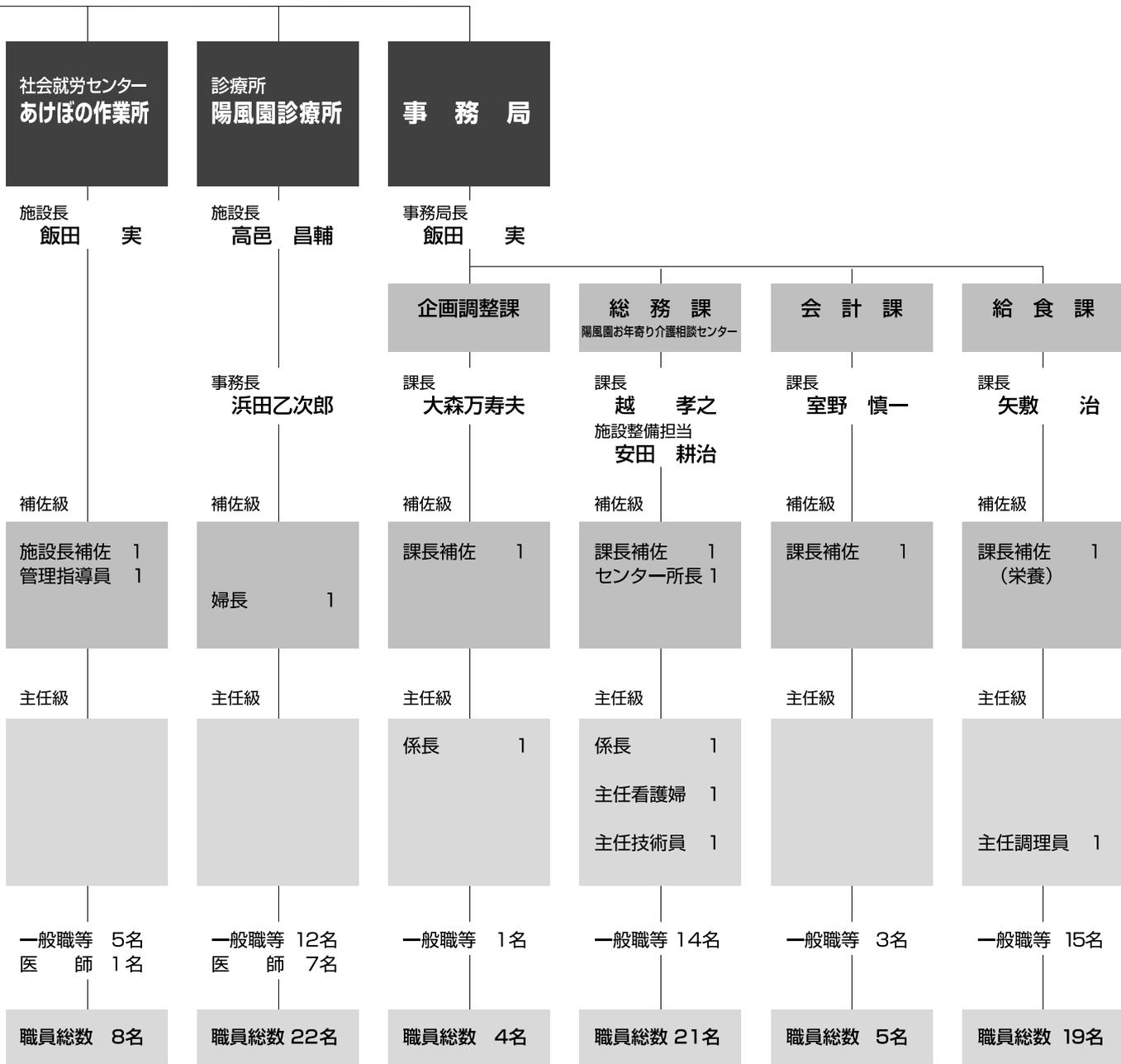
石川県石川郡野々市町末松二二三九
電話〇七六二四六二二三七一

社会福祉法人 陽風園 組織表

理事長 安田 隆明

常務理事長 浜田乙次郎（他に理事9名、監事2名、評議員23名）





全職員数 416名

社会福祉法人 陽風園

創立125周年記念誌

あした晴れ



社会福祉法人

陽風園